

「市民満足度調査」

集計・分析結果報告書

平成24年9月

千 曲 市

目 次

1. 調査の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査方法
- 3 調査票の配布及び回収結果
- 4 集計結果の取り扱いについて

2. 回答者の属性

- 1 性別
- 2 年齢
- 3 職業
- 4 居住区域
- 5 居住年数
- 6 住みやすさについて
- 7 今後の居留意向

3. 調査の結果

- 1 市政への関心
- 2 市政への満足度と重要度
- 3 市政への要望
- 4 市政に対する不満
- 5 「協働のまちづくり」について
- 6 「議会本会議」について

1. 調査の概要

1 調査の目的

平成 19 年 4 月に策定した「千曲市総合計画」に掲げた 32 項目の達成方針について、市民の皆さんがどの項目を重要と考えているのか、また、現状に対する各項目の満足度はどの程度かをお聴きし、今後の市政運営に役立てるため「市民満足度調査」を平成 20 年度より実施しています。

平成 21 年度より行政評価（施策評価）に、市民満足度調査の結果を絡めて評価しています。

2 調査方法

- (1) 調査対象 満 18 歳以上の市民
- (2) 標本数 2,000 人
- (3) 調査区域 千曲市全域
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送方式（料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送）
- (6) 調査期日 平成 24 年 8 月 24 日

3 調査票の配付及び回収結果

- (1) 調査票配付数 2,000 票
- (2) 有効回収数 520 票
- (3) 有効回収率 26.0%

前回（平成 23 年度）配付及び回収結果

- (1) 調査票配付数 2,000 票
- (2) 有効回収数 590 票
- (3) 有効回収率 29.5%

4 集計結果の取り扱いについて

- (1) 各項目の集計結果は百分率で表示し、個々の項目はそれぞれ少数第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、比率の合計が必ずしも 100%にならないことがある。
- (2) 「18、19 歳」の回答者数が極端に少ない為、集計結果が必ずしも目的に対して正しく反映されているとは限らない点もあるが、参考として表示するものとする。

2. 回答者の属性

(1) 性別

性別では、「男性」が43.3%、「女性」が56.3%であった。

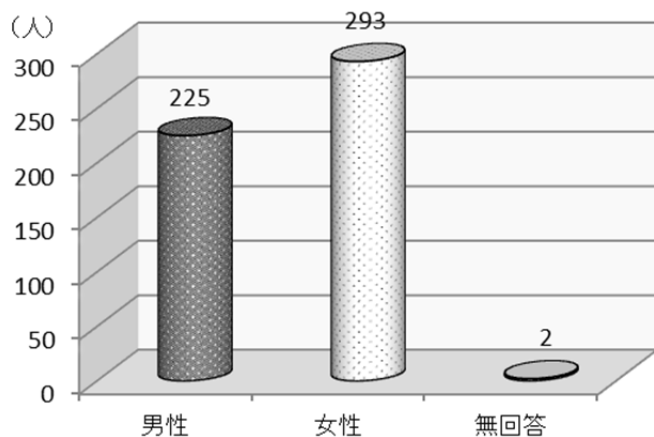


表 2-1-1 性別回答者数

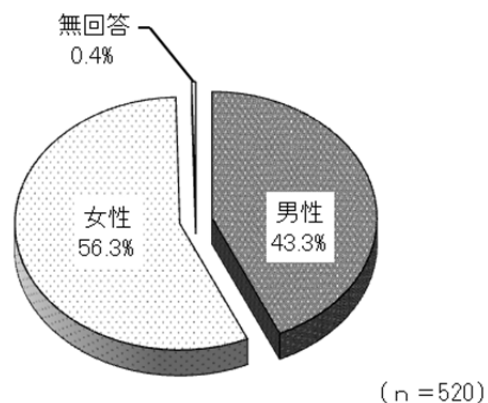


表 2-1-2 性別回答者割合

(2) 年齢

年齢別では、「60～69歳」が26.0%、「70歳以上」が22.1%、「50～59歳」が16.9%となっており、高年齢層が多く、60歳以上の回答者がほぼ半数を占めている。

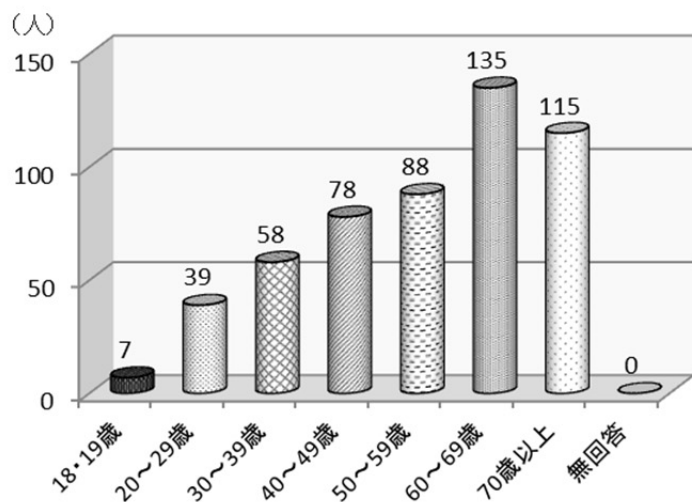


表 2-2-1 年齢別回答者数

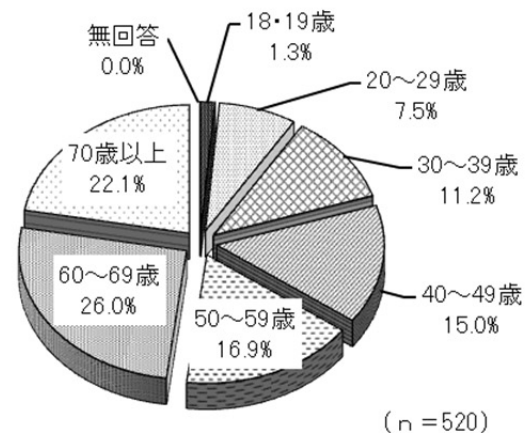


表 2-2-2 年齢別回答者割合

性別による年齢の比率は、男女ともにほぼ同じ傾向を示し「60～69 歳」が最も多く、29 歳以下は約 10%である。

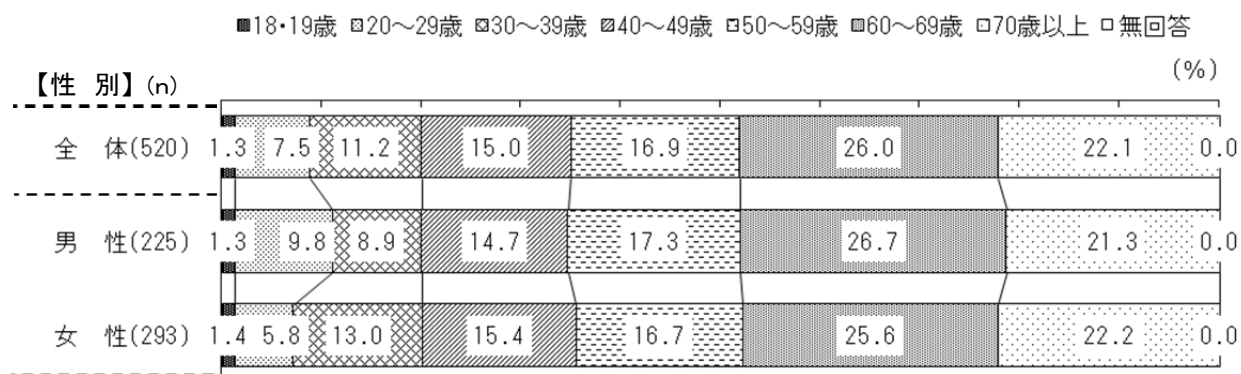


表 2-2-3 性別による年齢比率

(3) 職業

職業別では、「専業主婦・主夫・無職(38.5%)」が最も多く、次いで「会社員(26.5%)」、「自営業(商工サービス業ほか)(6.5%)」となっている。

形態別では、〈農林水産業〉と〈商工サービス業ほか〉を合わせた“自営業”は 10.5%、「会社員」、「公務員」、「団体職員」を合わせた“勤め人”は 35.0%、「専業主婦・主夫、無職」は 38.5%となっている。

平成 23 年調査結果と比較すると、各職業ともほぼ同じ割合となっている。

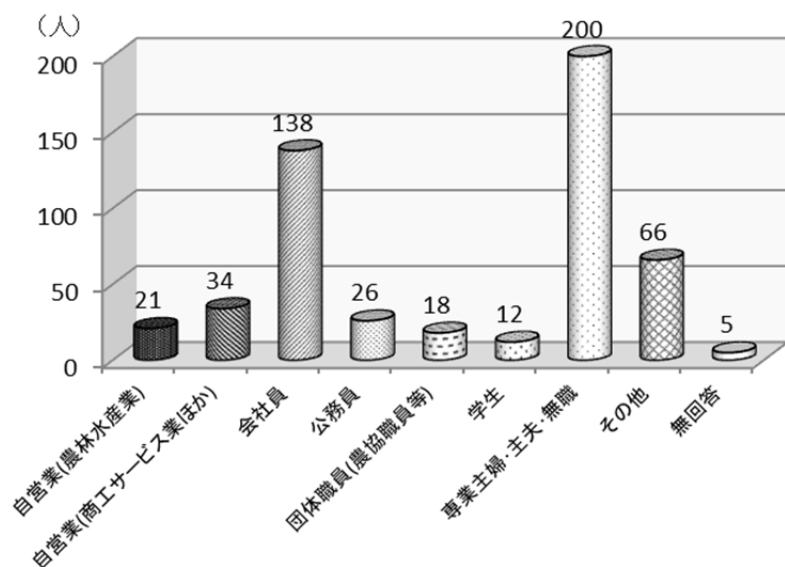


表 2-3-1 職業別回答者数

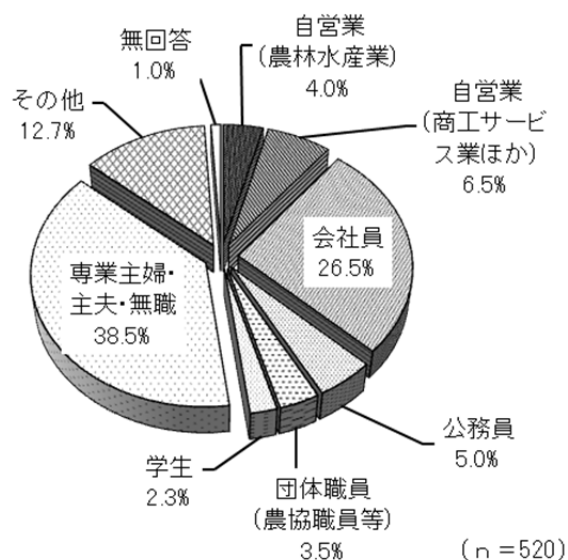


表 2-3-2 職業別回答者割合

(4) 居住区域

居住区域別では、「埴生小学校区(16.0%)」が最も多く、「上山田小学校区(8.1%)」が最も少ない。

しかし、全体からすると、居住区域別の回答率の差はあまりみられない。

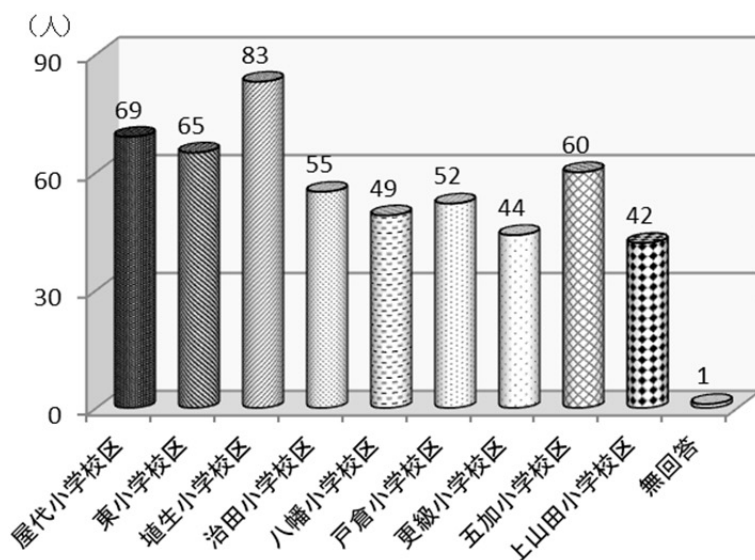


表 2-4-1 居住区域別回答者数

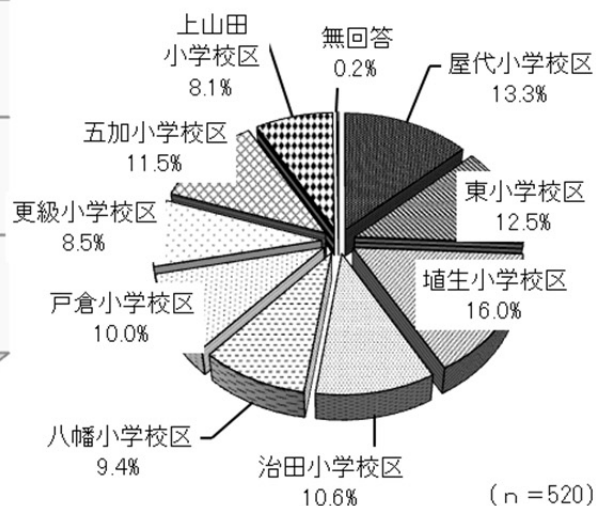


表 2-4-2 居住区域別回答者割合

【参考】

～通学区域～

屋代小学校	大字屋代、大字粟佐
東小学校	大字雨宮、大字土口、大字生萱、大字森、大字倉科
埴生小学校	大字寂蒔、大字鑄物師屋、大字打沢、大字小島、大字桜堂、 大字杭瀬下、杭瀬下一・二・三・四・五・六丁目、大字新田、大字中
治田小学校	大字稻荷山、大字野高場、大字桑原、大字八幡のうち中原区
八幡小学校	大字八幡（中原区を除く。）
戸倉小学校	大字磯部、大字戸倉、大字戸倉温泉、大字若宮のうち字八王子、 大字上徳間のうち今井町区
更級小学校	大字若宮（字八王子を除く。）、大字羽尾、大字須坂
五加小学校	大字上徳間（今井町区を除く。）、大字内川、大字千本柳、大字小船山
上山田小学校	大字力石、大字新山、大字上山田、上山田温泉一・二・三・四丁目

(5) 居住年数

居住年数別では、「30年以上(65.6%)」が最も多く約6割を占めている。「5年未満」、「5～10年未満」が同率(4.8%)で最も少なく10年未満の新たな居住者は1割に満たない状況である。平成23年調査結果と比較すると、「30年以上」は4.1%増加、「20～30年未満」は4.5%減少である。その他は、いずれもわずかながら増加している。

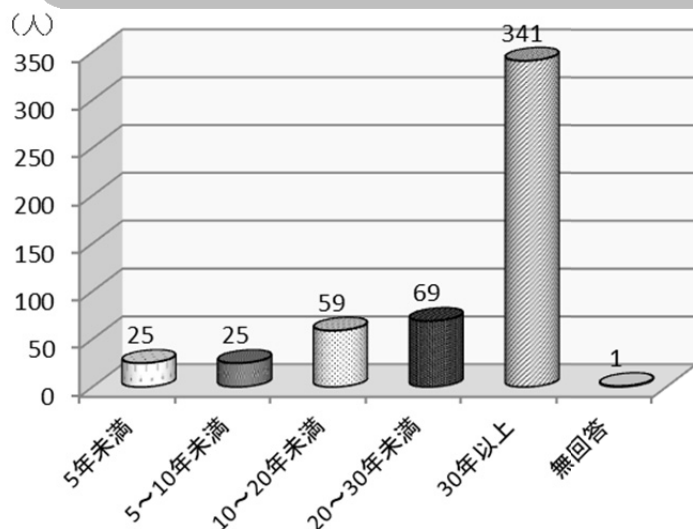
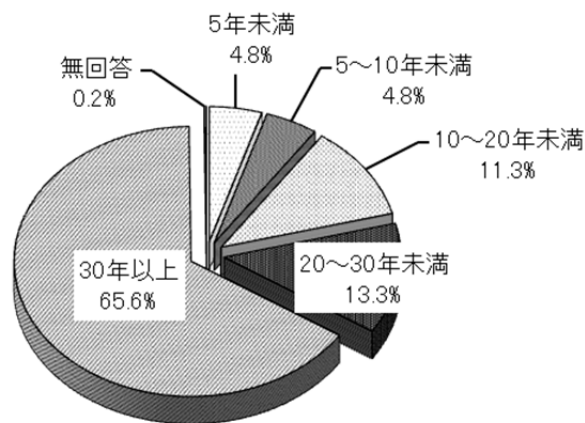


表 2-5-1 居住年数別回答数



(n = 520)

表 2-5-2 居住年数別回答割合

【居住区域別の居住年数】

どの小学校区も居住年数「30年以上」が約6割以上を占めている。居住年数30年未満については、居住年数と回答率は一概に比例しておらず、居住区域でばらつきがある。

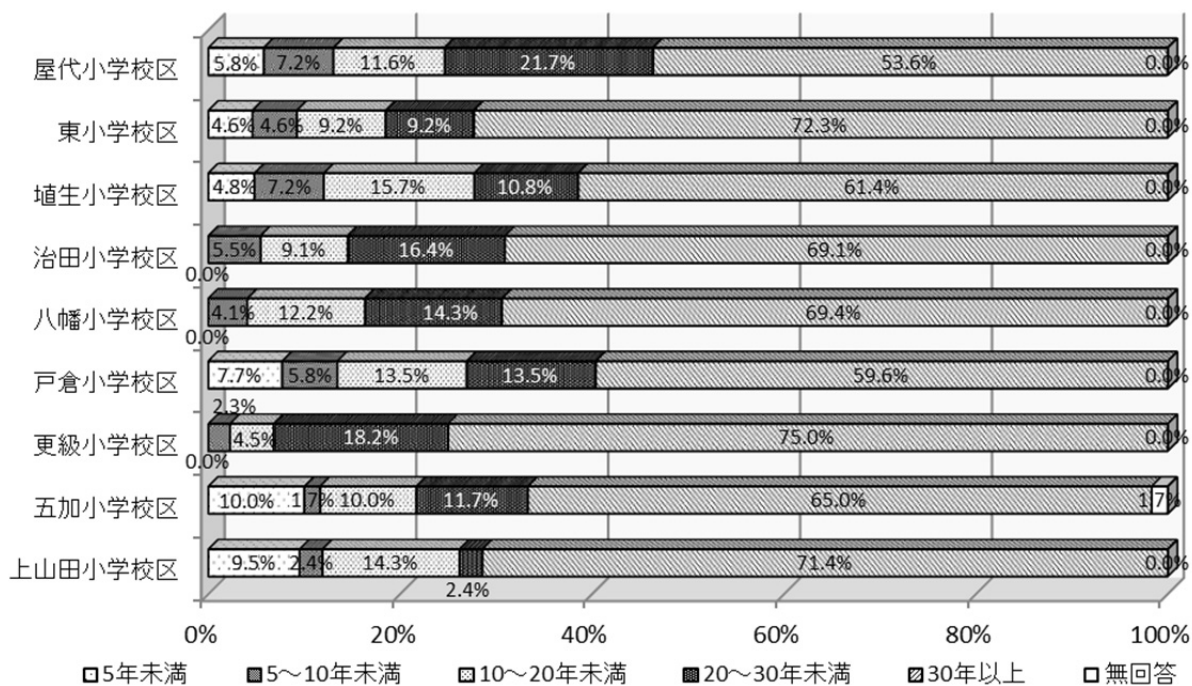


表 2-5-3 居住区域別居住年数の割合

(6) 住みやすさについて

住みやすさについては、「住みやすい(24.6%)」と「まあまあ住みやすい(65.5%)」の2つを合わせた「住みやすい(85.4%)」が8割を超えている。「あまり住みやすくない(9.2%)」と「住みにくい(2.1%)」の2つを合わせた「住みにくい(11.3%)」は約1割である。

平成23年調査結果と比較すると、住みやすいが-0.8%、まあまあ住みやすいが+2.0%、あまり住みやすくないが+0.9%、住みにくいが-0.6%となっている。

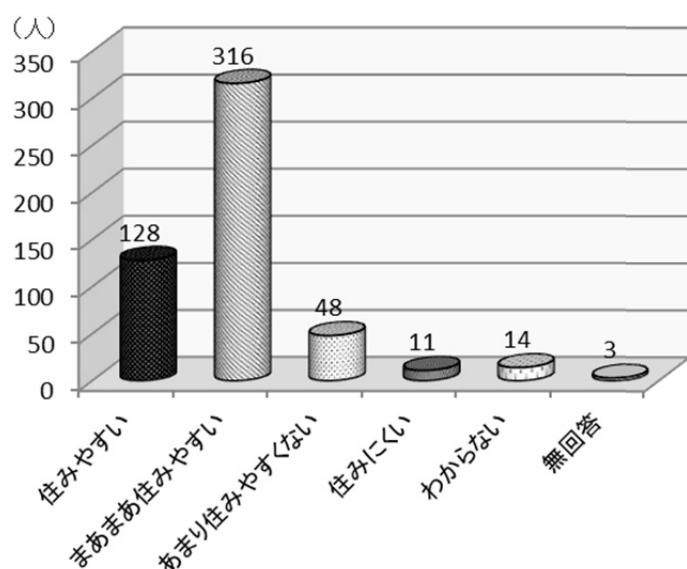
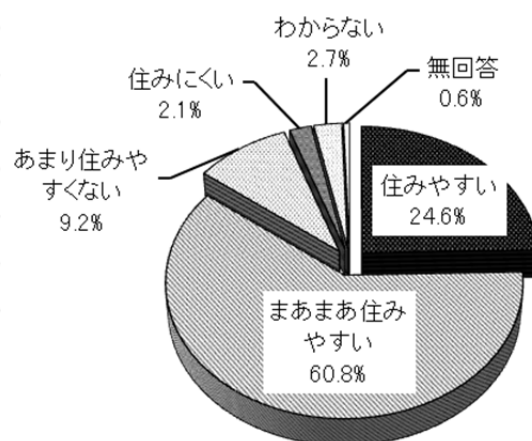


表 2-6-1 「住みやすさ」についての回答数



(n = 520)

表 2-6-2 「住みやすさ」についての回答割合

【居住年数別の住みやすさについて】

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた「住みやすい」が居住年数5年以上では8割を超えたが、居住年数5年未満では7割以下であった。

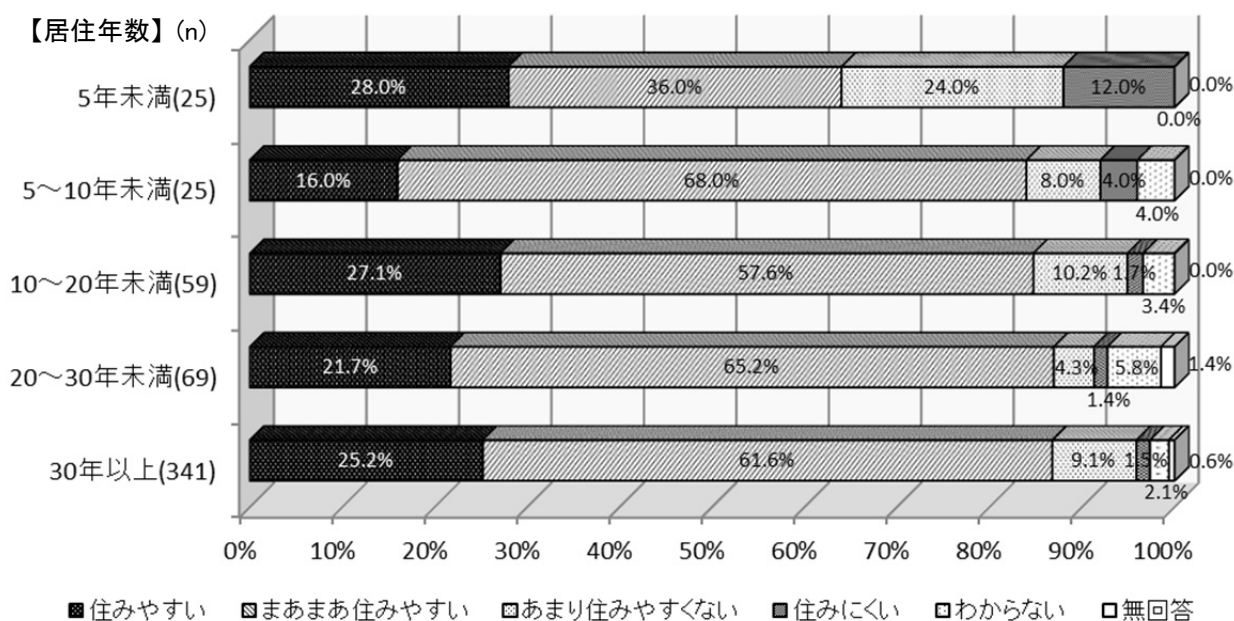


表 2-6-3 居住年数別「住みやすさ」についての回答割合

【居住区域別の住みやすさについて】

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた“住みやすい”がほとんどの居住区域で8割を超えたが、「八幡小学校区(73.5%)」「上山田小学校区(76.2%)」については8割以下であった。

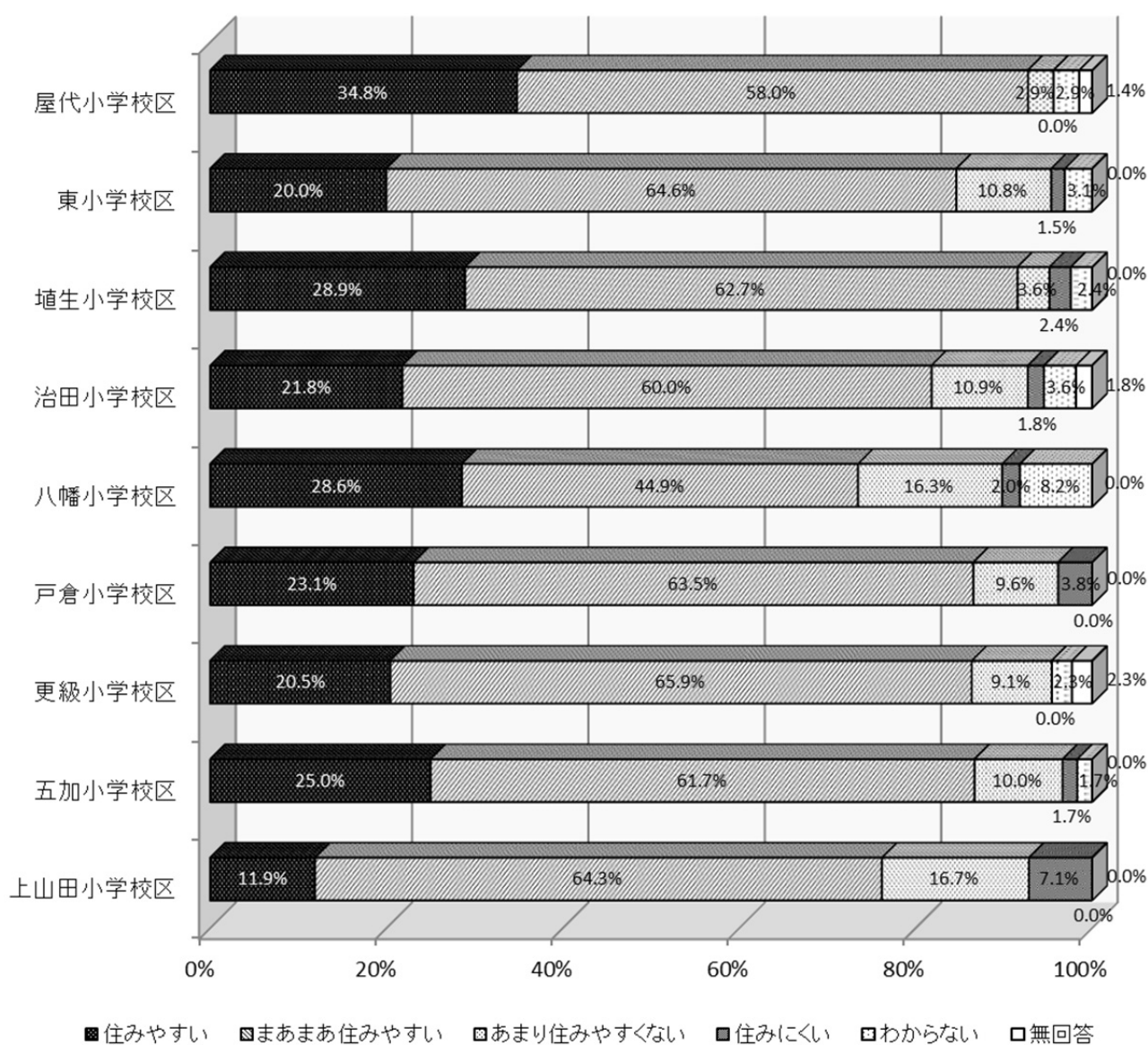


表 2-6-4 居住区域別「住みやすさ」についての回答割合

(7) 今後の居住意向

今後の居住意向は、「住み続けたい(75.2%)」が最も多く、「市外に転出する予定(2.1%)」が最も少ない。「住み続けたい(75.2%)」と「出来れば市内の他地域に転居したい(4.8%)」を合わせると、回答者の8割が、千曲市での居住意向を持っていることがうかがえる。

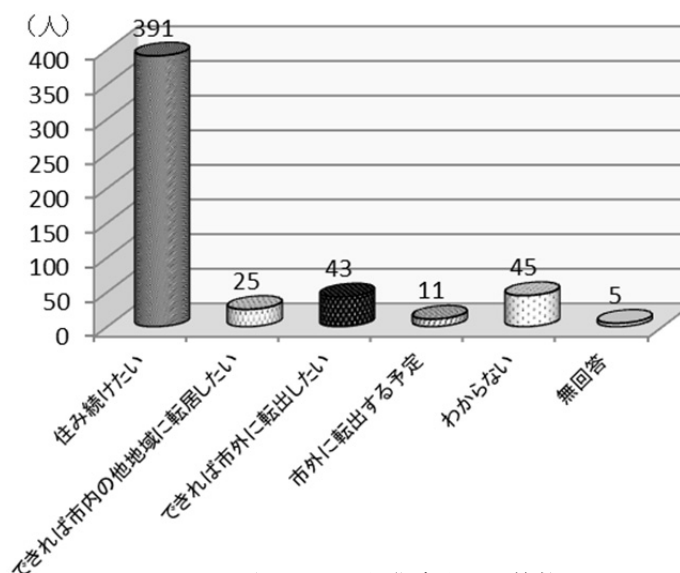


表 2-7-1 居住意向の回答数

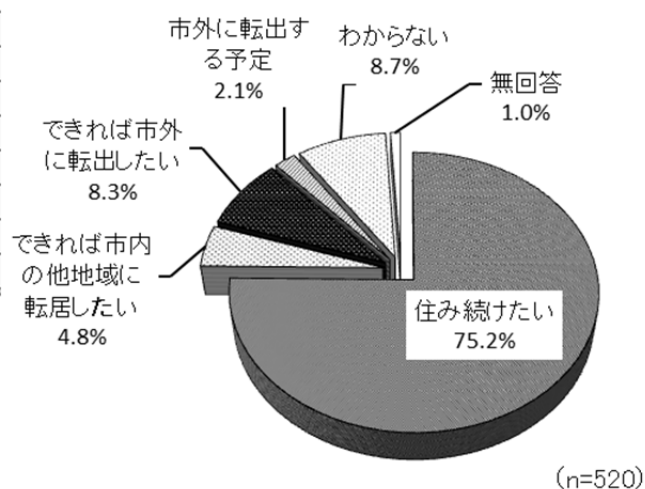


表 2-7-2 居住意向の回答割合

【居住年数別の居住意向】

各居住年数とも「住み続けたい」が最も割合が高い。
しかし、居住年数が低くなるにつれて「住み続けたい」の割合が低下している。

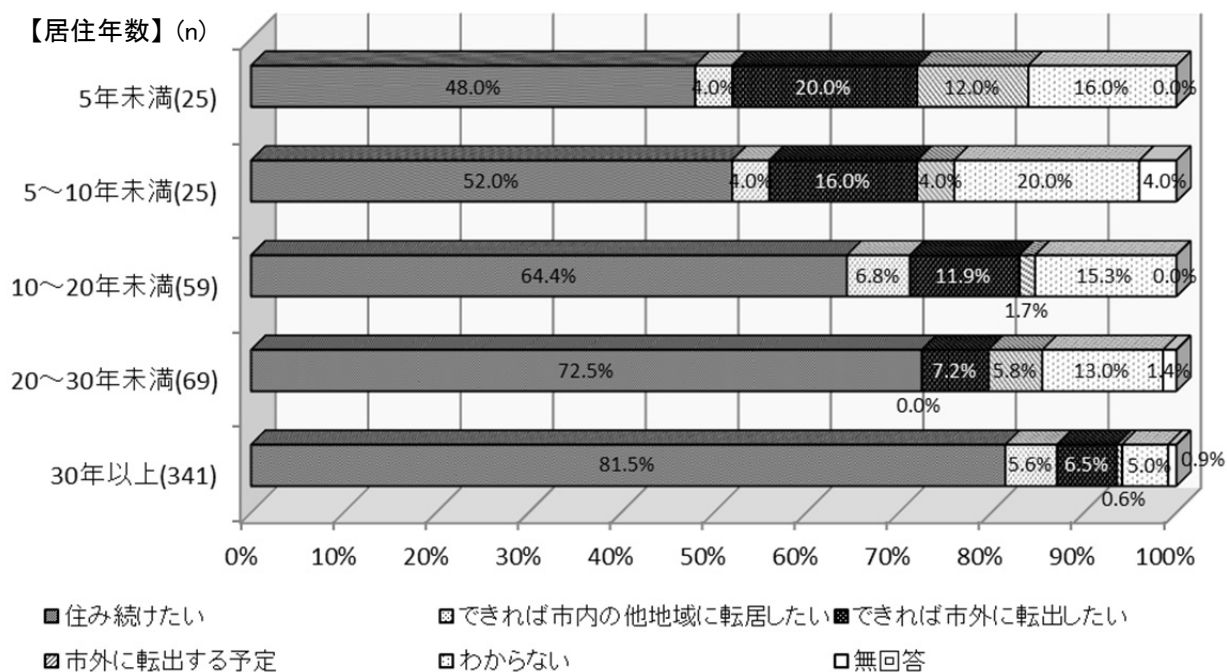


表 2-7-3 居住年数別居住意向の回答割合

【居住区域別の居住意向】

各居住区域とも「住み続けたい」が最も割合が高い。「住み続けたい」と「出来れば市内の他地域に転居したい」を合わせると、回答者の約7～8割が千曲市での居住意向を持っていることがうかがえる。

しかし、「上山田小学校区」では、「できれば市外に転出したい」の割合が16.7%あり、他地域への転出を希望している割合が高かった。

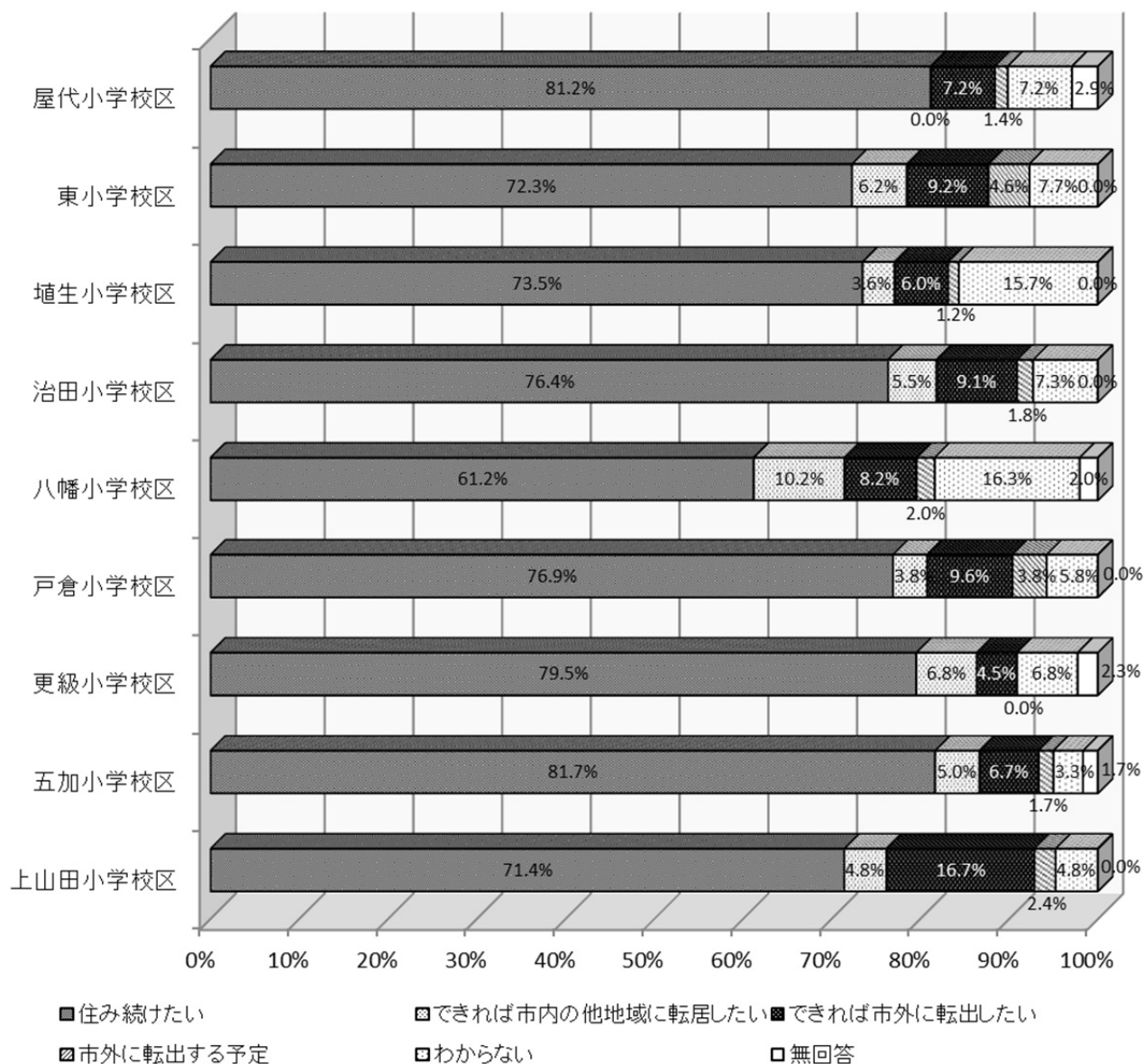


表 2-7-4 居住区域別居住意向の回答割合

3. 調査の結果

(1) 市政への関心

「ある程度関心がある(58.1%)」、「あまり関心がない(19.8%)」、「大変関心がある(8.8%)」の順となった。

「ある程度関心がある(58.1%)」、「大変関心がある(8.8%)」の2つを合わせた“関心がある”は66.9%となり、6割のみなさんが市政への関心があるという結果になった。

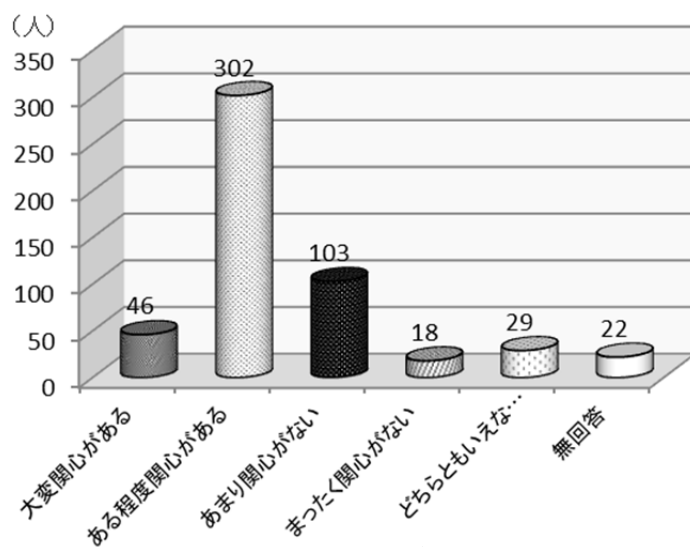
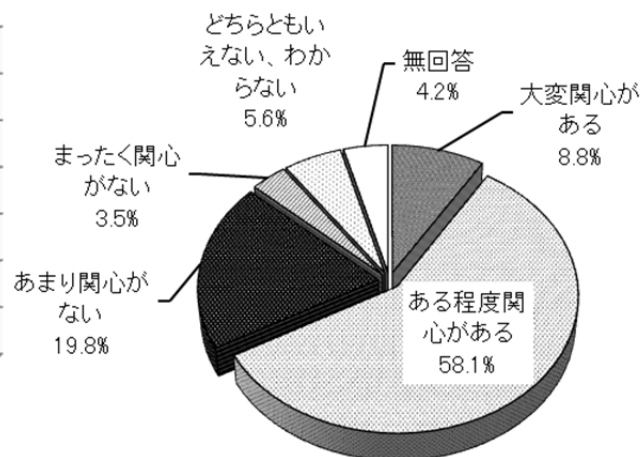


表 3-1-1 市政への関心の回答数



(n = 520)

表 3-1-2 市政への関心の回答割合

【年齢別の市政への関心】

若い年代ほど市政への関心が低下している。

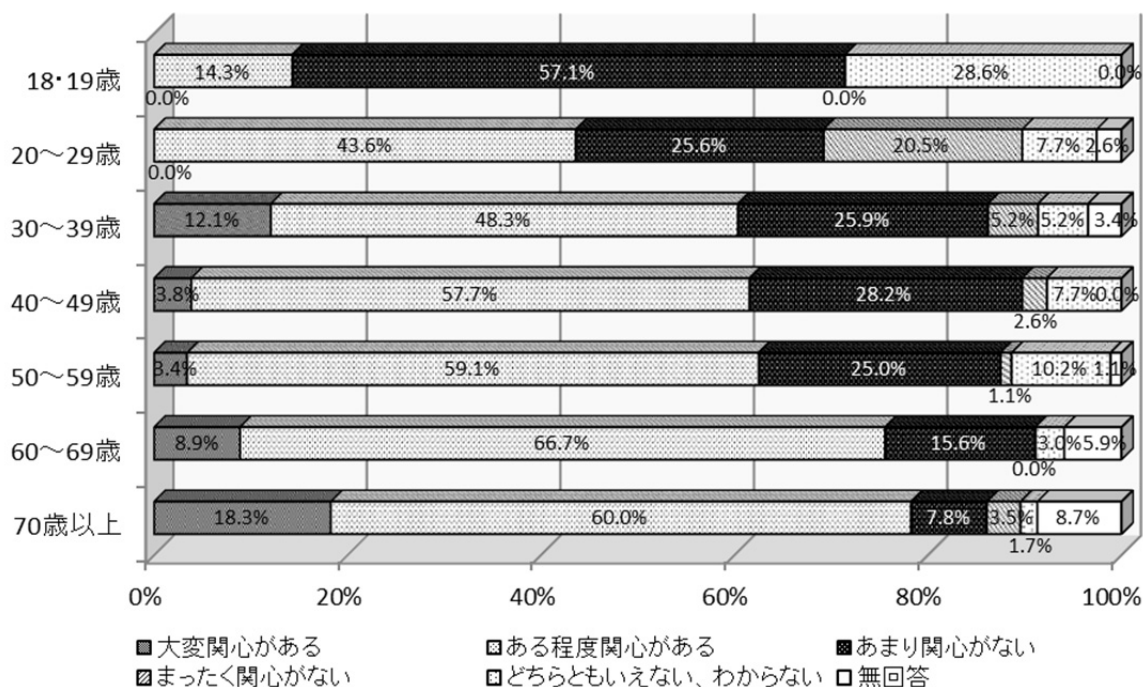


表 3-1-3 年齢別市政への関心の回答割合

(2) 市政への満足度と重要度

問 2-2 以下の項目は、総合計画に掲げた 32 の達成方針とその目標が達成された状態を示しています。

それぞれの項目について、「千曲市にとって重要か」、「目標が達成された状態と比較して現状は満足しているか」、あなたのお考えに 1 つ○をつけてください。

<市政にとっての重要度>

「重要である」の割合が高いのは、「保健・医療(71.3%)」、「上下水道(67.5%)」、「安全・安心(61.3%)」であり、6 割を超えている。次いで「健康づくり(58.5%)」、「ごみ処理(57.3%)」、「教育(56.9%)」、「移住・定住(56.3%)」、「広域行政(51.9%)」、「子育て(51.9%)」の順となっていて、5 割を超えている。

一方、重要度の低い項目では、「国際交流(16.5%)」の割合が最も低く、次いで「情報コミュニケーション(25.0%)」、「歴史・文化財(27.1%)」、「男女共同参画(28.3%)」、「食文化(29.0%)」、「市民交流(29.6%)」の順となっている。

<市政への重要度の意識変化>

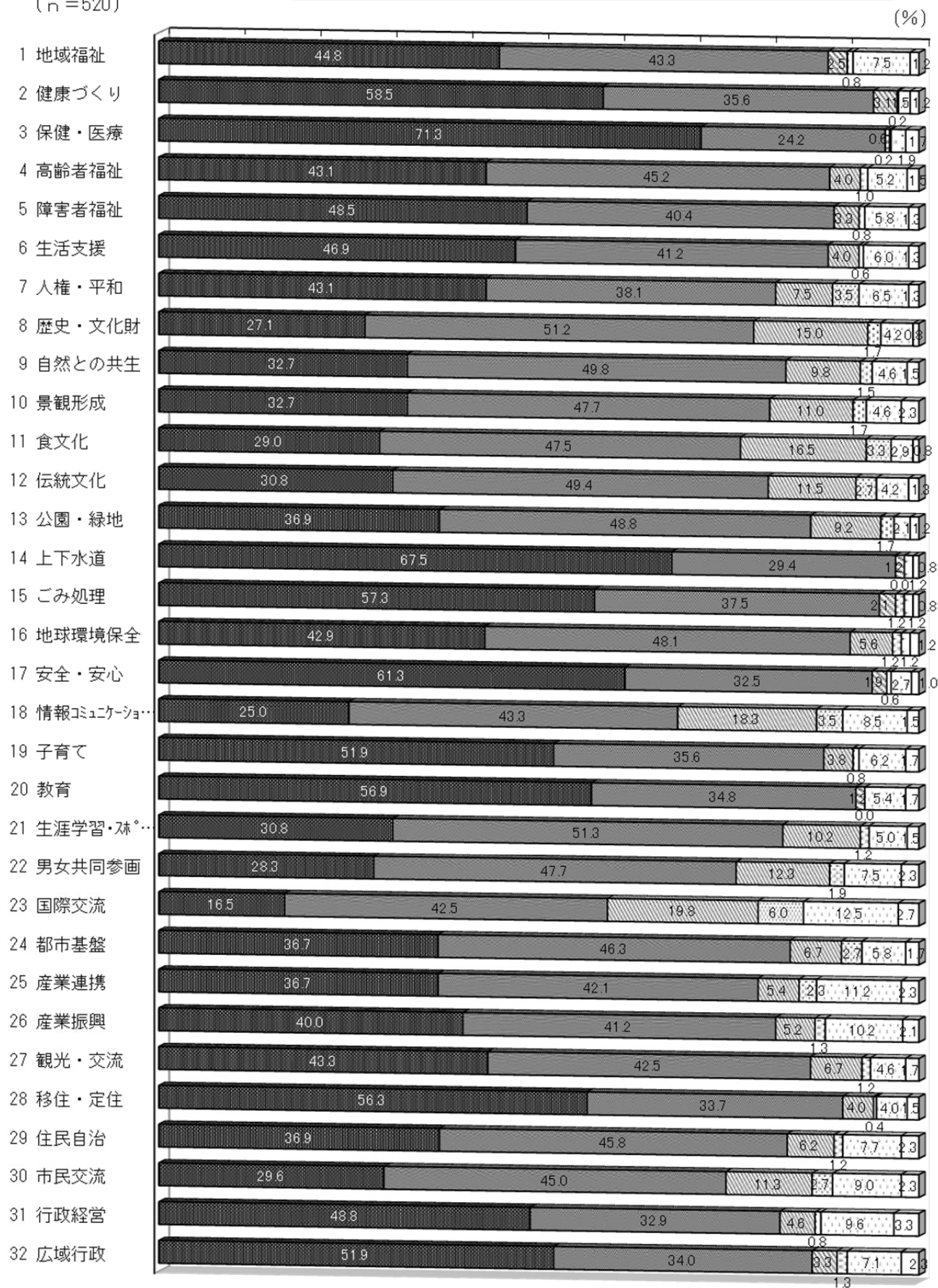
「重要である」と「まあ重要である」の 2 つを合わせた“重要”の割合が、平成 23 年調査結果と比較して増加しているのは「人権・平和(+7.4%)」、「教育(+5.3%)」、「歴史・文化財(+5.2%)」、「子育て(+5.1%)」、「生涯学習・スポーツ・文化芸術(+4.7%)」などとなっている。

一方、割合が減少しているのは、「伝統・文化(-1.7%)」、「観光・交流(-0.8%)」の 2 項目だけである。

< 市政にとっての重要度 >

(n=520)

■重要である ■まあ重要である □あまり重要でない □重要でない □わからない □無回答



<重要度の平均スコア>

32 項目の市政にとっての重要度について、「重要である」に+10 点、「まあ重要である」に+5 点、「あまり重要でない」に-5 点、「重要でない」に-10 点の点数を与え、平均スコアを求めた。これによると平均スコアの最大は+10 点、最小は-10 点であり点数が大きいほど重要度が高いことになる。

平均スコアが最も高いのは、「保健・医療(8.30)」である。次いで「上下水道(8.16)」、「安全・安心(7.61)」、「健康づくり(7.45)」、「ごみ処理(7.38)」などの順となっている。

平均スコアが最も低いのは、「国際交流(2.19)」である。次いで「情報コミュニケーション(3.40)」、「食文化(4.13)」、「歴史・文化財(4.35)」、「市民交流(4.38)」などの順となっている。また、32 項目全体の平均スコアは 5.83 であった。(前年度の平均スコアは、5.86)

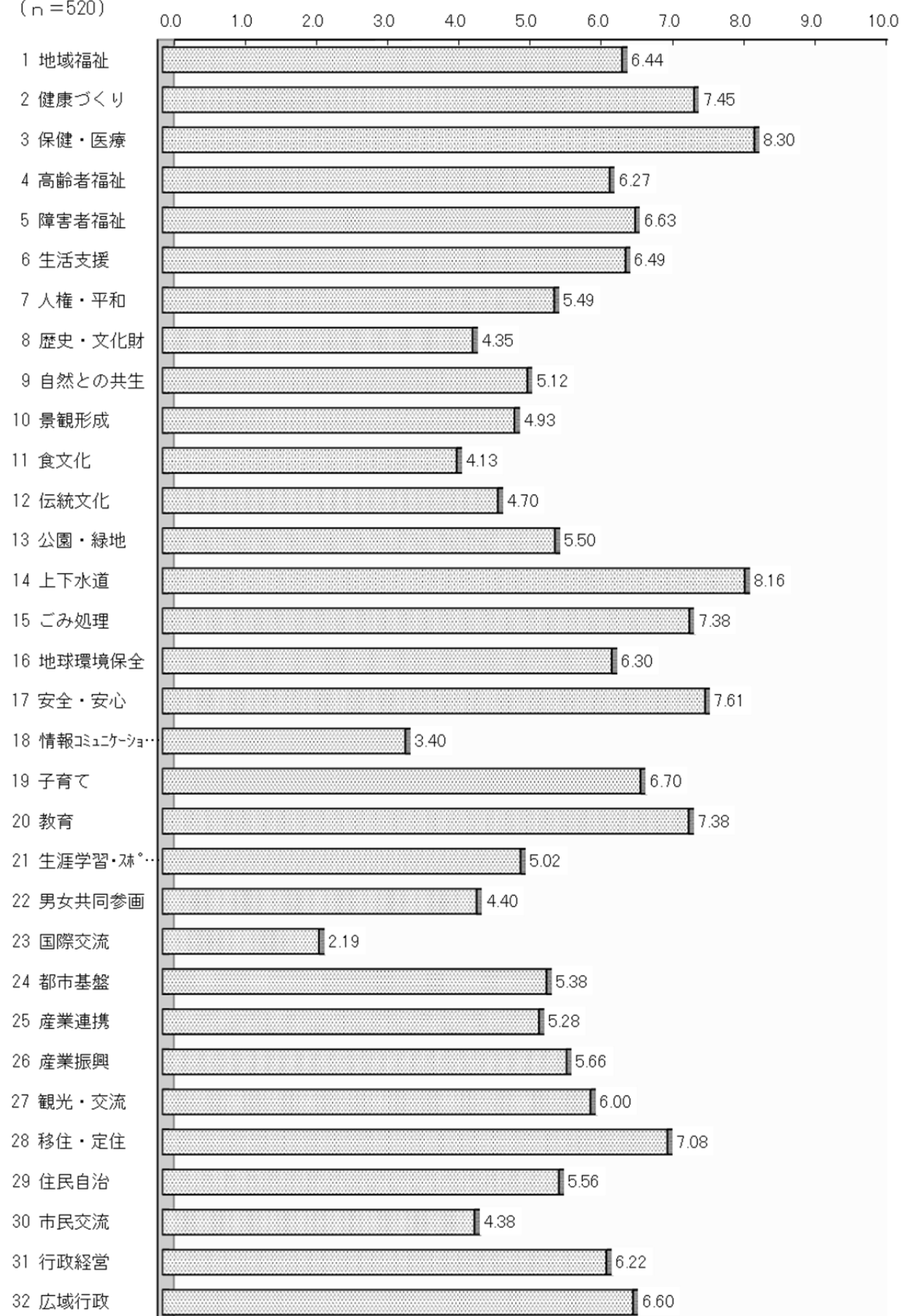
平成 23 年調査結果とのランキング比較(15 頁参照)において、「保健・医療(2 位から 1 位)」、「上下水道(1 位から 2 位)」、「健康づくり(5 位から 4 位)」、「ごみ処理(4 位から 5 位)」、「教育(7 位から 6 位)」、「移住・定住(6 位から 7 位)」と順位に変動があったものの、上位の 7 項目は同じであった。

下位についても、「男女共同参画(30 位から 27 位)」、「食文化(27 位から 30 位)」と順位に変動があったものの、下位 6 項目は同じであった。

ランキングが大幅に上昇したのは、「子育て(14 位から 8 位)」、「人権・平和(25 位から 20 位)」、「生活支援(15 位から 11 位)などである。一方、ランキングが大幅に下降したのは、「地球環境保全(8 位から 13 位)」、「観光・交流(12 位から 16 位)」、「産業連携(18 位から 22 位)」などである。

<重要度の平均スコア>

(n=520)



<重要度の平均スコアランキング>

ランク			項 目	ポイント数		
H24 (今回)	順位 変動	H23 (前回)		H24 (今回)	H23 (前回)	差
1	↑	2	3 保健・医療	8.30 P	8.14 P	0.16
2	↓	1	14 上下水道	8.16 P	8.21 P	△ 0.05
3	→	3	17 安全・安心	7.61 P	7.74 P	△ 0.13
4	↑	5	2 健康づくり	7.45 P	7.16 P	0.29
5	↓	4	15 ごみ処理	7.38 P	7.71 P	△ 0.33
6	↑	7	20 教育	7.38 P	6.95 P	0.43
7	↓	6	28 移住・定住	7.08 P	6.99 P	0.09
8	↑	14	19 子育て	6.70 P	6.31 P	0.39
9	↑	11	5 障害者福祉	6.63 P	6.55 P	0.08
10	↓	9	32 広域行政	6.60 P	6.81 P	△ 0.21
11	↑	15	6 生活支援	6.49 P	6.30 P	0.19
12	↓	10	1 地域福祉	6.44 P	6.56 P	△ 0.12
13	↓	8	16 地球環境保全	6.30 P	6.91 P	△ 0.61
14	↑	16	4 高齢者福祉	6.27 P	6.27 P	△ 0.00
15	↓	13	31 行政経営	6.22 P	6.33 P	△ 0.11
16	↓	12	27 観光・交流	6.00 P	6.39 P	△ 0.39
17	→	17	26 産業振興	5.66 P	5.85 P	△ 0.19
18	↑	21	29 住民自治	5.56 P	5.42 P	0.14
19	→	19	13 公園・緑地	5.50 P	5.67 P	△ 0.17
20	↑	25	7 人権・平和	5.49 P	4.76 P	0.73
21	↓	20	24 都市基盤	5.38 P	5.49 P	△ 0.11
22	↓	18	25 産業連携	5.28 P	5.68 P	△ 0.40
23	↓	22	9 自然との共生	5.12 P	5.24 P	△ 0.12
24	↑	26	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	5.02 P	4.61 P	0.41
25	↓	24	10 景観形成	4.93 P	5.03 P	△ 0.10
26	↓	23	12 伝統文化	4.70 P	5.20 P	△ 0.50
27	↑	30	22 男女共同参画	4.40 P	4.06 P	0.34
28	→	28	30 市民交流	4.38 P	4.42 P	△ 0.04
29	→	29	8 歴史・文化財	4.35 P	4.30 P	0.05
30	↓	27	11 食文化	4.13 P	4.47 P	△ 0.35
31	→	31	18 情報コミュニケーション	3.40 P	3.48 P	△ 0.08
32	→	32	23 国際交流	2.19 P	2.35 P	△ 0.16

< 市政への満足度 >

「満足している」と「まあ満足している」の2つを合わせた“満足”の割合が最も高いのは、「上下水道(68.3%)」である。次いで「健康づくり(62.5%)」、「食文化(60.0%)」、「地球環境保全(58.7%)」、「歴史・文化財(57.3%)」、「ごみ処理(56.5%)」、「安全・安心(53.3%)」、などの順となっている。

「あまり満足していない」と「満足していない」の2つを合わせた“不満”の割合が最も高いのは、「観光・交流(56.5%)」である。次いで「移住・定住(55.0%)」、「産業振興(52.3%)」、「都市基盤(50.0%)」などの順となっている。

< 市政への満足度の意識変化 >

市政への満足度についての平成23年調査結果との比較は、“満足”の割合が増加しているのは「都市基盤(+6.9%)」、「保健・医療(+6.9%)」、「景観形成(+4.2%)」、「歴史・文化財(+4.1%)」などとなっている。

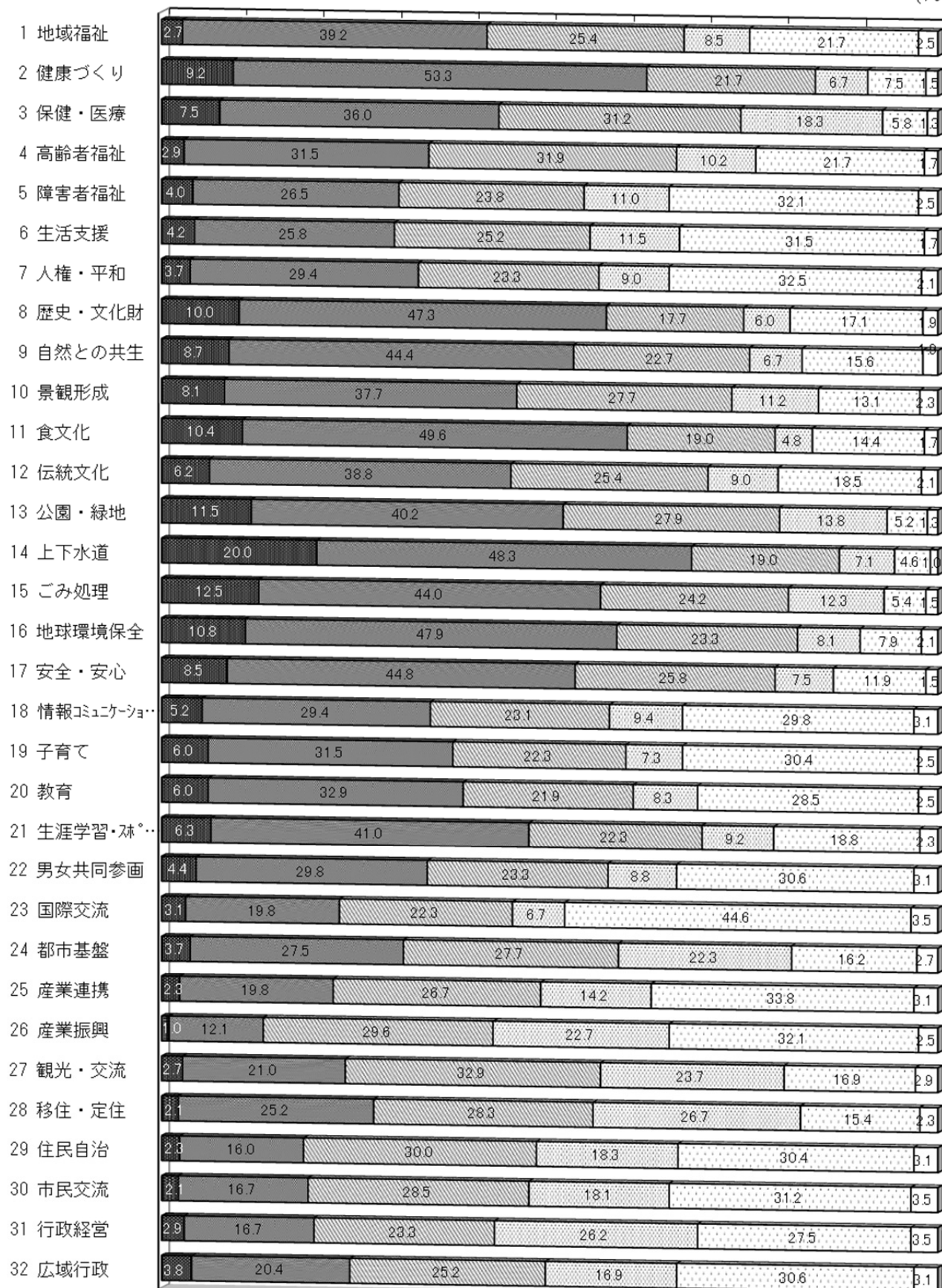
一方、“不満”の割合が増加しているのは「公園・緑地(+5.3%)」、「人権・平和(+4.3%)」などとなっている。

< 市政への満足度 >

(n=520)

■満足している ■まあ満足している ■あまり満足していない
□満足していない □わからない □無回答

(%)



<満足度の平均スコア>

重要度と同様に、市政への満足度についても、32項目ごとに「満足している」に+10点、「まあ満足している」に+5点、「あまり満足していない」に-5点、「満足していない」に-10点の点数を与え、平均スコアを求めた。

平均スコアが最も高いのは、「上下水道(2.75)」である。次いで「食文化(2.09)」、「歴史・文化財(1.88)」、「健康づくり(1.83)」、「地球環境保全(1.50)」などの順となっている。

平均スコアが最も低いのは、「産業振興(-3.05)」である。次いで「観光・交流(-2.69)」、「行政経営(-2.65)」、「移住・定住(-2.62)」、「住民自治(-2.30)」などの順となっている。

また、32項目全体の平均スコアは-0.27であった。(前年度の平均スコアは、-0.37)

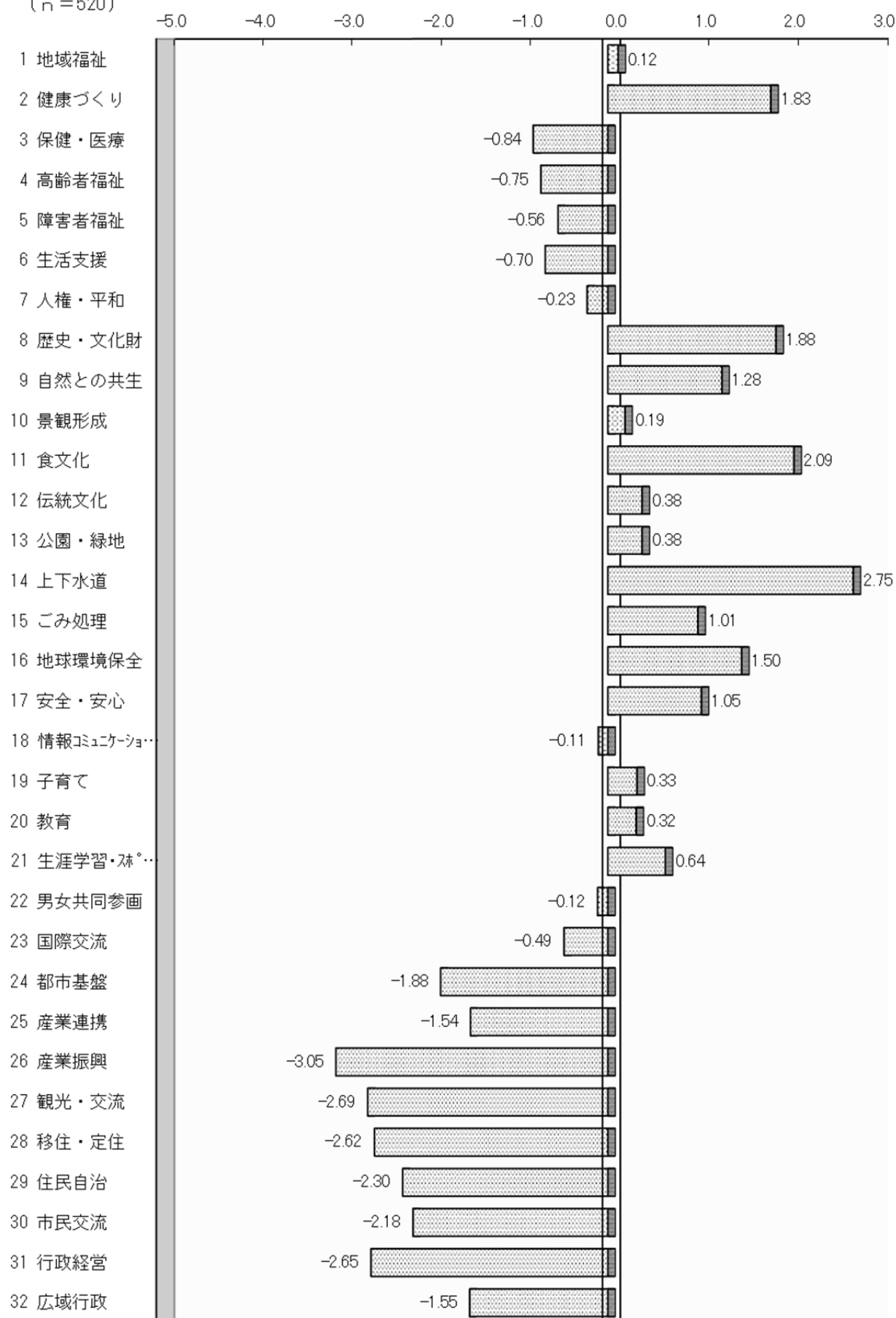
平成23年調査結果とのランキング比較(20頁参照)において、「上下水道(1位)」の変動はなかった。上位について、「食文化(4位から2位)」、「歴史・文化財(5位から3位)」、「健康づくり(3位から4位)」、「地球環境保全(2位から5位)」と順位に変動があったものの、上位の7項目は同じであった。

下位についても、「都市基盤(29位から26位)」、「住民自治(26位から28位)」、「移住・定住(28位から29位)」、「観光・交流(32位から31位)」、「産業振興(31位から32位)」と順位に変動があったものの、下位の7項目は同じであった。

ランキングが大幅に上昇したのは、「景観形成(20位から14位)」、「子育て(16位から12位)」などで、ランキングが大幅に下降したのは、「地域福祉(11位から15位)」などである。

<満足度の平均スコア>

(n=520)



<満足度の平均スコアランキング>

ランク			項 目	ポイント数		
H24 (今回)	順位 変動	H23 (前回)		H24 (今回)	H23 (前回)	差
1	→	1	14 上下水道	2.75 P	2.65 P	0.10
2	↑	4	11 食文化	2.09 P	1.62 P	0.47
3	↑	5	8 歴史・文化財	1.88 P	1.43 P	0.45
4	↓	3	2 健康づくり	1.83 P	1.76 P	0.07
5	↓	2	16 地球環境保全	1.50 P	1.85 P	△ 0.35
6	→	6	9 自然との共生	1.28 P	1.23 P	0.05
7	→	7	17 安全・安心	1.05 P	0.91 P	0.14
8	↑	9	15 ごみ処理	1.01 P	0.78 P	0.23
9	↑	12	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	0.64 P	0.36 P	0.28
10	→	10	12 伝統文化	0.38 P	0.77 P	△ 0.39
11	↓	8	13 公園・緑地	0.38 P	0.85 P	△ 0.47
12	↑	16	19 子育て	0.33 P	-0.03 P	0.36
13	→	13	20 教育	0.32 P	0.33 P	△ 0.01
14	↑	20	10 景観形成	0.19 P	-0.59 P	0.78
15	↓	11	1 地域福祉	0.12 P	0.40 P	△ 0.28
16	↓	14	18 情報コミュニケーション	-0.11 P	0.20 P	△ 0.31
17	→	17	22 男女共同参画	-0.12 P	-0.42 P	0.30
18	↓	15	7 人権・平和	-0.23 P	-0.01 P	△ 0.22
19	↑	22	23 国際交流	-0.49 P	-0.85 P	0.36
20	↑	21	5 障害者福祉	-0.56 P	-0.84 P	0.28
21	↓	18	6 生活支援	-0.70 P	-0.56 P	△ 0.14
22	↓	19	4 高齢者福祉	-0.75 P	-0.59 P	△ 0.16
23	↑	24	3 保健・医療	-0.84 P	-1.54 P	0.70
24	↑	25	25 産業連携	-1.54 P	-1.71 P	0.17
25	↓	23	32 広域行政	-1.55 P	-1.11 P	△ 0.44
26	↑	29	24 都市基盤	-1.88 P	-2.83 P	0.96
27	→	27	30 市民交流	-2.18 P	-2.24 P	0.06
28	↓	26	29 住民自治	-2.30 P	-2.07 P	△ 0.23
29	↓	28	28 移住・定住	-2.62 P	-2.51 P	△ 0.11
30	→	30	31 行政経営	-2.65 P	-2.83 P	0.18
31	↑	32	27 観光・交流	-2.69 P	-3.25 P	0.56
32	↓	31	26 産業振興	-3.05 P	-2.87 P	△ 0.18

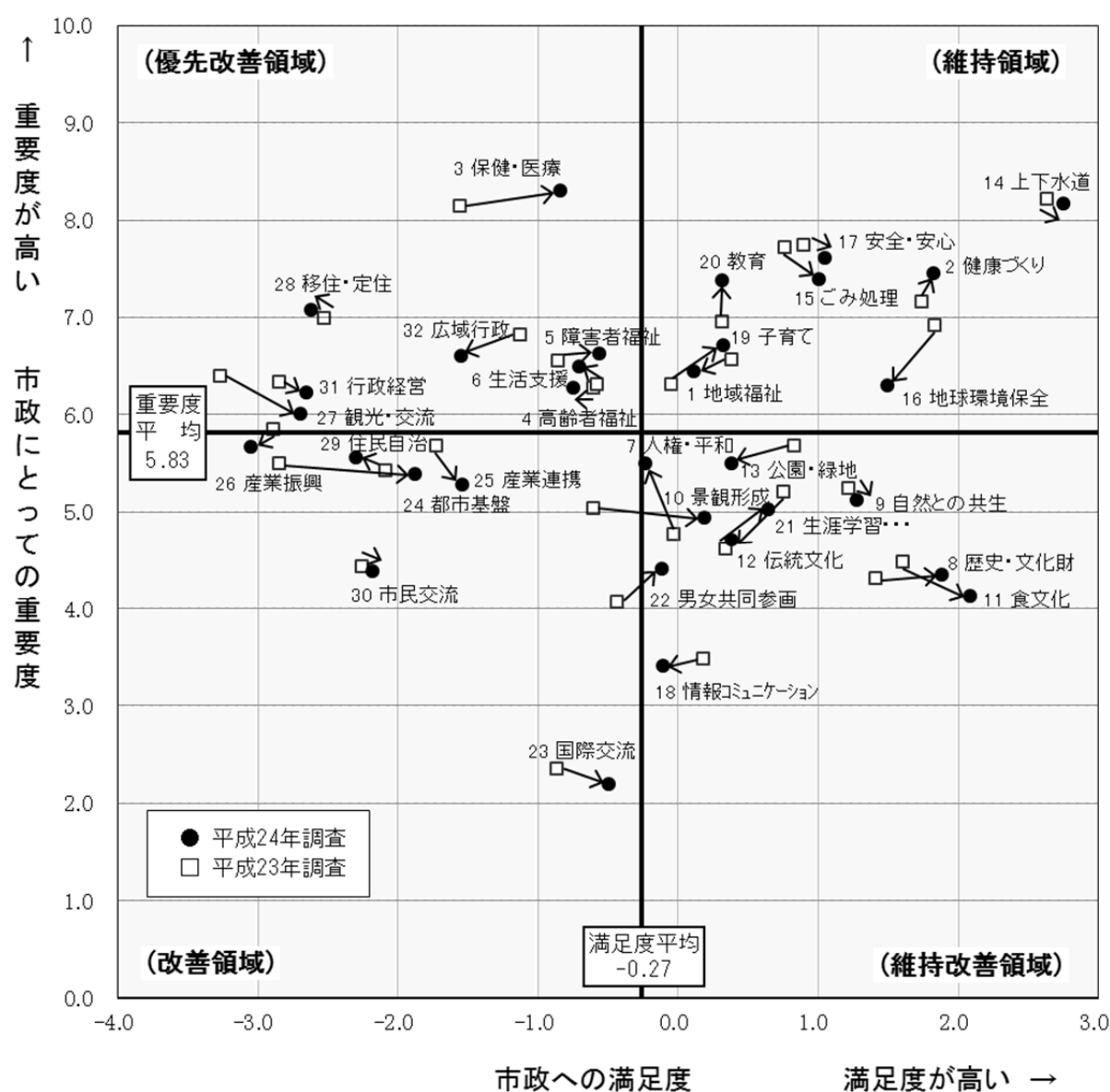
<重要度と満足度の相関>

32 項目について、市政にとっての重要度の平均スコアと市政への満足度の平均スコアの相関を示した。

この図では、より左上にある項目ほど満足度が低く、かつ重要度が高いことになり、今後の市政の重点課題になるものと考えられる。

満足度が低く重要度が高い項目としては「保健・医療」、「移住・定住」、「行政経営」、「観光・交流」などがあげられる。

また、満足度が高く重要度も高い項目としては、「上下水道」、「安全・安心」、「健康づくり」、「ごみ処理」などがあげられる。



(3) 市政への要望

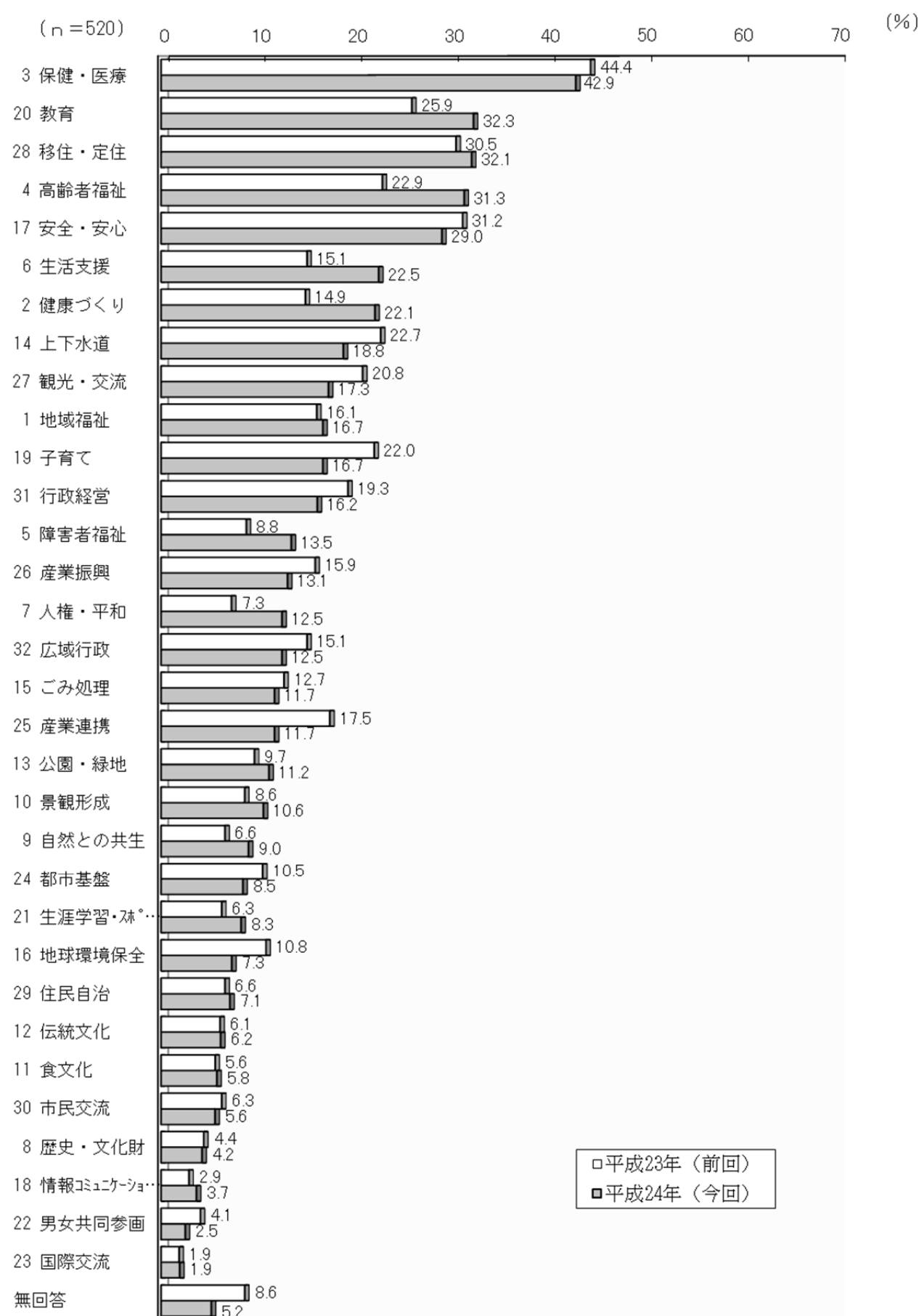
問 2-3 今後、千曲市がより暮らしやすい地域になるためには、問 2-2 に示した「総合計画に掲げた 32 の達成方針」のうち、どの項目が重要とお考えですか。1 から 32 までの項目の中から、特に重要と考える項目を 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

特に重要だと思う施策については、昨年と同様に「保健・医療(42.9%)」が最も多かった。次いで「教育(32.3%)」、「移住・定住(32.1%)」、「高齢者福祉(31.3%)」、「安全・安心(29.0%)」、「生活支援(22.5%)」などの順になっている。

平成 23 年調査との比較において、増加しているのは「高齢者福祉(+8.5%)」、「生活支援(+7.4%)」、「健康づくり(+7.2%)」、「教育(+6.4%)」などである。

一方、減少しているのは「産業連携(-5.7%)」、「子育て(-5.3%)」などである。

<市政への要望>



【性別・年齢別の市政への要望】

性別では、共に「保健・医療」が1位で、2位から5位までは、順位は異なっているが同じ項目となっている。

年齢別では、10代は他の年齢層と違いが見られる。10代以外の全ての年齢層で「保健・医療」が1位で、10代と70歳以上を除く全ての年齢層で「移住・定住」が共通して高い割合になっている。また、20代から40代では「教育」、「子育て」の割合が共通して高く、40代以上では「高齢者福祉」の割合が共通して高くなっている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位		
全体 (n=520)	保健・医療 (42.9%)	教育 (32.3%)	移住・定住 (32.1%)	高齢者福祉 (31.3%)	安全・安心 (29.0%)		
男性 (n=225)	保健・医療 (36.4%)	教育 (32.4%)	移住・定住 (30.2%)	安全・安心 (28.4%)	高齢者福祉 (27.1%)		
女性 (n=293)	保健・医療 (47.4%)	高齢者福祉 (34.5%)	移住・定住 (33.8%)	教育 (32.4%)	安全・安心 (29.7%)		
18・19 歳 (n=7)	障害者福祉 (42.9%)	伝統文化 (42.9%)	市民交流 (42.9%)	人権・平和 (28.6%)	公園・緑地 (28.6%)	安全・安心 (28.6%)	子育て 移住・安定 (28.6%)
20 代 (n=39)	保健・医療 (46.2%)	教育 (46.2%)	安全・安心 (30.8%)	子育て (28.2%)	移住・定住 (28.2%)		
30 代 (n=58)	保健・医療 (53.4%)	移住・定住 (44.8%)	子育て (34.5%)	観光・交流 (32.8%)	教育 (31.0%)		
40 代 (n=78)	保健・医療 (47.4%)	教育 (44.9%)	移住・定住 (33.3%)	高齢者福祉 (28.2%)	子育て (26.9%)		
50 代 (n=88)	保健・医療 (38.6%)	移住・定住 (36.4%)	教育 (34.1%)	高齢者福祉 (33.0%)	安全・安心 (31.8%)		
60 代 (n=135)	保健・医療 (45.2%)	高齢者福祉 (33.3%)	移住・定住 (33.3%)	安全・安心 (32.6%)	生活支援 (28.9%)		
70 歳以上 (n=115)	保健・医療 (36.5%)	高齢者福祉 (34.8%)	安全・安心 (31.3%)	教育 (26.1%)	健康づくり (24.3%)		

(4) 市政に対する不満

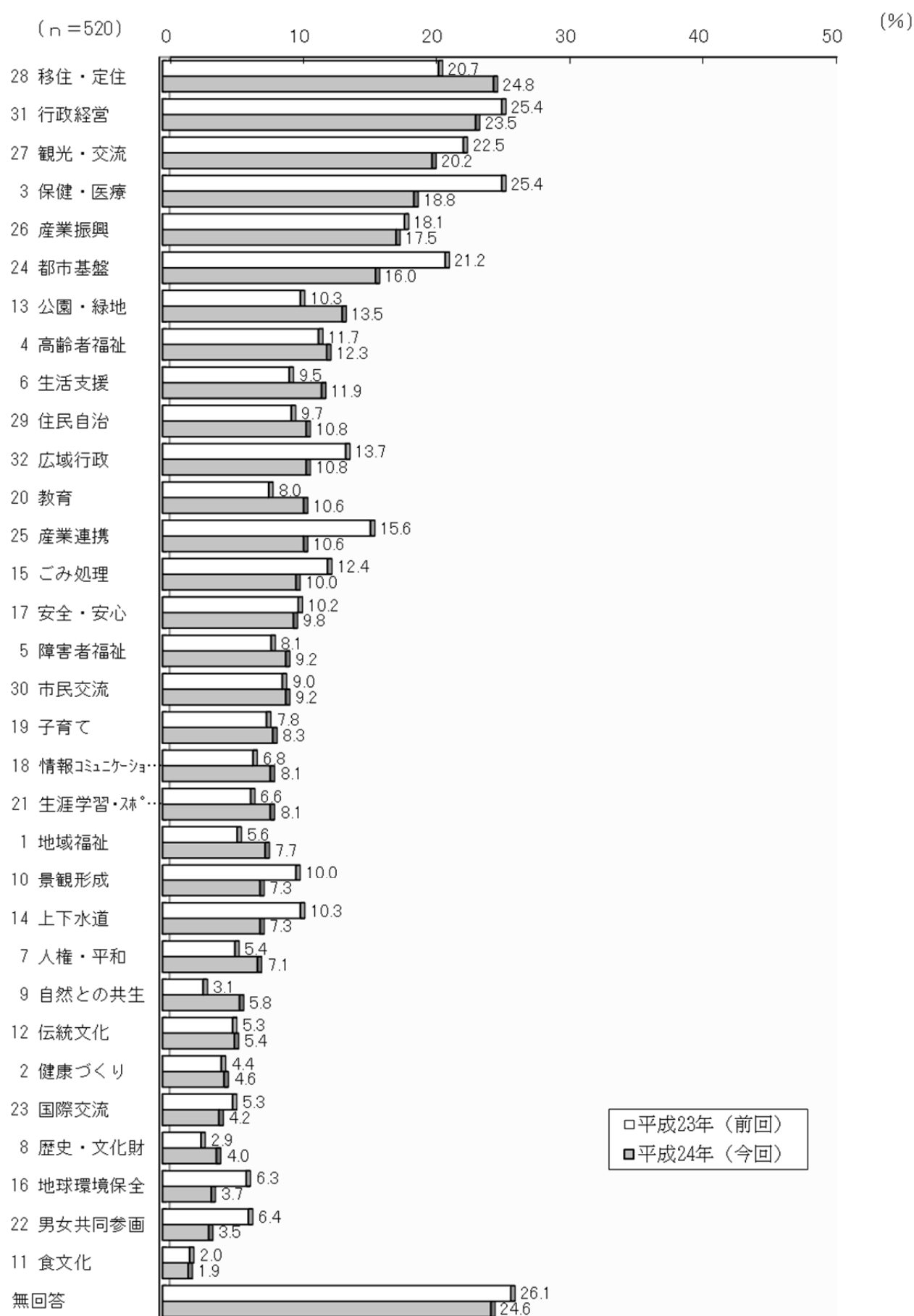
問 2-4 現状で、特に不満を感じている項目を問 2-3 同様 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

特に不満を感じている施策については、「移住・定住 (24.8%)」が最も多かった。次いで「行政経営 (23.5%)」、「観光・交流 (20.2%)」、「保健・医療 (18.8%)」、「産業振興 (17.5%)」の順となっている。

平成 23 年調査結果と比較すると、大幅に増加しているのは「移住・定住 (+4.1%)」、「公園・緑地 (+3.1%)」などである。

一方、大幅に減少しているのは「保健・医療 (-6.6%)」、「都市基盤 (-5.2%)」、「産業連携 (-5.0%)」などである。

< 市政に対する不満 >



【性別・年齢別の市政に対する不満】

性別では、順位は異なっているが、同じ4項目が占めている。

年齢別では、「移住・定住」が全ての年齢層で共通して高い割合になっている。その他「行政経営」、「観光・交流」、「保健・医療」、「都市基盤」の4項目については、年齢層で若干のばらつきはあるものの、共通して高い割合になっている。

また、50代以上では「高齢者福祉」が共通して高い割合になっている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	
全体 (n=520)	移住・定住 (24.8%)	行政経営 (23.5%)	観光・交流 (20.2%)	保健・医療 (18.8%)	産業振興 (17.5%)	
男性 (n=225)	行政経営 (30.7%)	移住・定住 (27.1%)	産業振興 (24.4%)	観光・交流 (21.8%)	都市基盤 (19.1%)	
女性 (n=293)	保健・医療 (23.5%)	移住・定住 (23.2%)	観光・交流 (19.1%)	行政経営 (18.1%)	公園・緑地 (13.7%)	都市基盤 (13.7%)
18・19 歳 (n=7)	移住・定住 (57.1%)	公園・緑地 (42.9%)	観光・交流 (42.9%)	自然との共生 (28.6%)	生涯学習・スポーツ・文化芸術 (28.6%)	都市基盤 (28.6%)
20 代 (n=39)	保健・医療 (28.2%)	移住・定住 (25.6%)	人権・平和 (23.1%)	行政経営 (23.1%)	都市基盤 (17.9%)	
30 代 (n=58)	移住・定住 (37.9%)	行政経営 (34.5%)	保健・医療 (29.3%)	都市基盤 (27.6%)	観光・交流 (27.6%)	
40 代 (n=78)	移住・定住 (26.9%)	行政経営 (24.4%)	観光・交流 (23.1%)	保健・医療 (21.8%)	産業振興 (21.8%)	
50 代 (n=88)	移住・定住 (22.7%)	行政経営 (20.5%)	産業振興 (18.2%)	高齢者福祉 (15.9%)	都市基盤 (15.9%)	観光・交流 (15.9%)
60 代 (n=135)	移住・定住 (25.2%)	行政経営 (23.7%)	保健・医療 (22.2%)	観光・交流 (21.5%)	高齢者福祉 (20.0%)	
70 歳以上 (n=115)	行政経営 (20.9%)	産業振興 (20.0%)	観光・交流 (18.3%)	移住・定住 (15.7%)	地域福祉 (13.9%)	高齢者福祉 (13.9%)

(5) 「協働のまちづくり」について

問 3-1 「協働」という言葉を以前から知っていましたか。

「協働」については、「知らない(45.2%)」、「聞いたことがある(31.5%)」、「意味を知っている(21.3%)」となった。

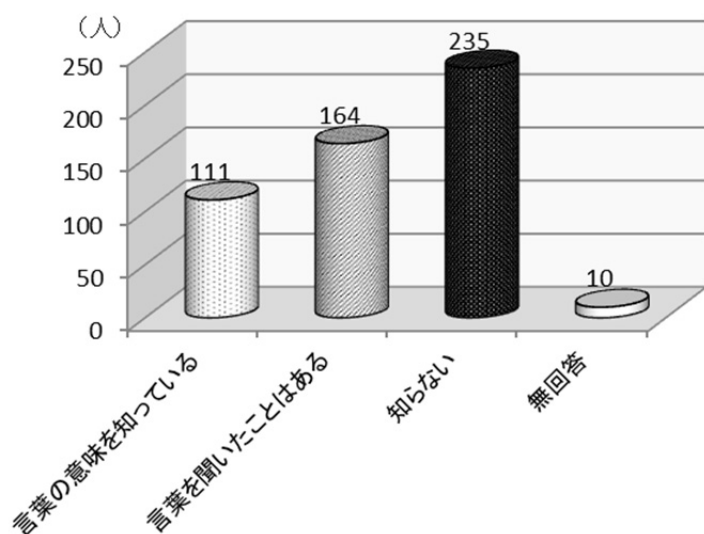


表 3-5-1 「協働」についての回答数

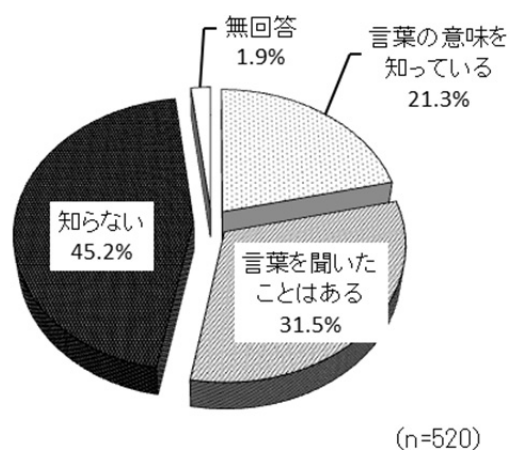


表 3-5-2 「協働」についての回答割合

【参考】

協働とは

地域における目標の達成や課題の解決を図るため、市民と行政が対等な立場で一緒に考え、一緒に行動すること。

【性別の「協働」について】

「意味を知っている」の男性が15.4%、女性が29.3%となり、「知らない」の男性が51.5%、女性が36.9%となった。女性の方に認知度が高いことがうかがえる。

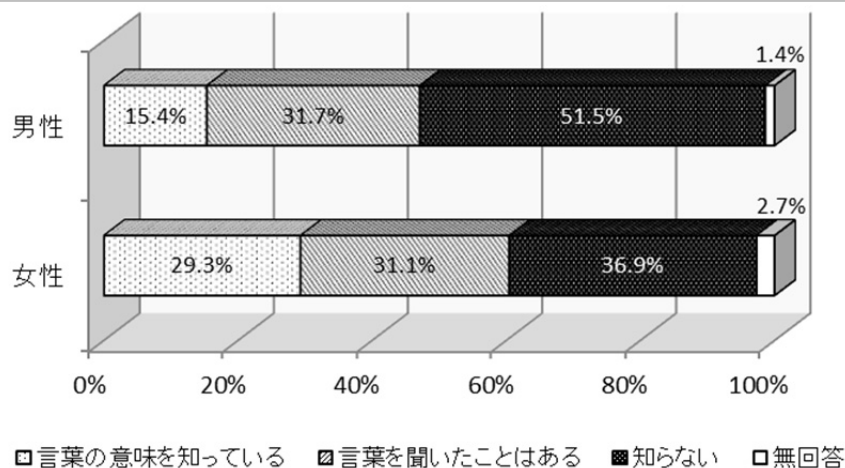


表 3-5-3 性別「協働」についての回答割合

【年齢別の「協働」について】

60歳以上では「意味を知っている」、「聞いたことがある」の割合が半数を超えているが、59歳以下のすべての年齢層で「知らない」の比率が約半数を占めており、「協働の意味」に対する理解度が全体的に低いことがうかがえる。

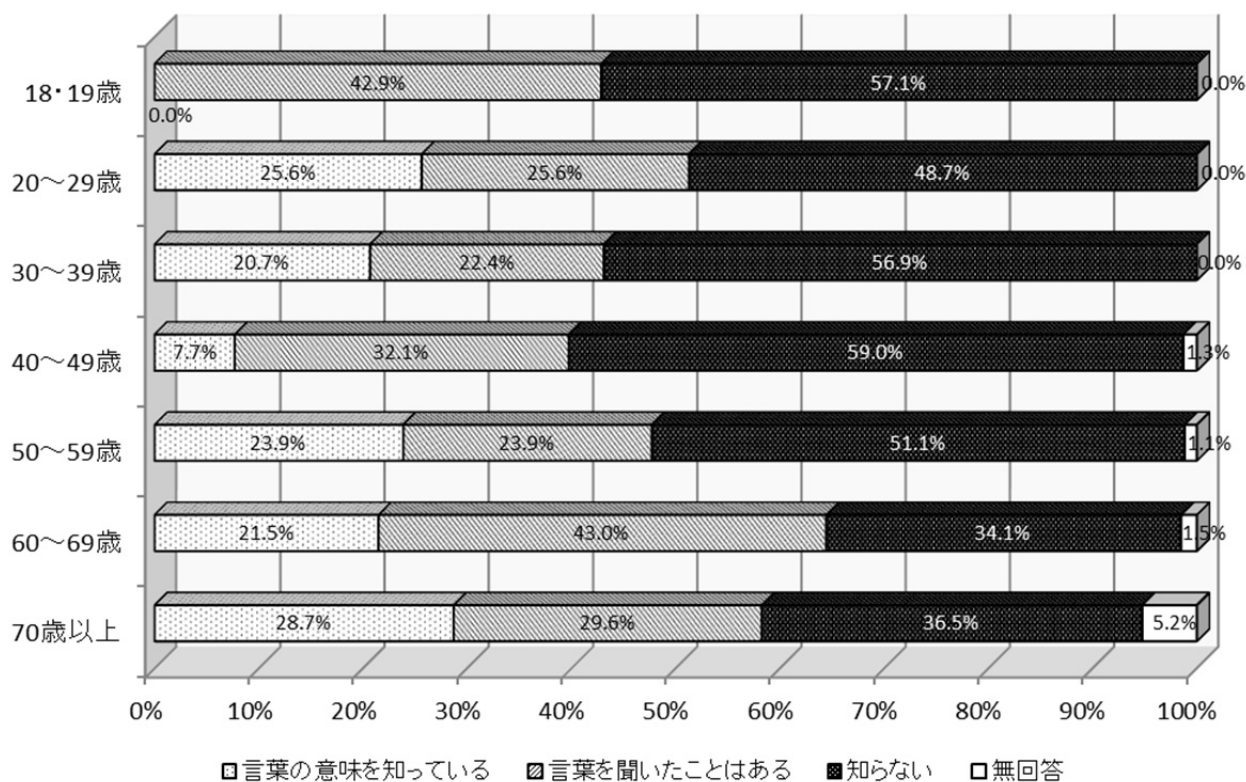


表 3-5-4 年齢別「協働」についての回答割合

問 3-2 市民と行政と一緒に考え、一緒に行動する「協働のまちづくり」の実現に向け、あなたはなにか活動をしたいと思いますか。

活動については、「機会があれば考えたい(53.8%)」の割合が高く、「わからない(24.2%)」、「今後活動したい(6.5%)」、「活動したくない(7.1%)」、「現在活動している(5.2%)」となった。

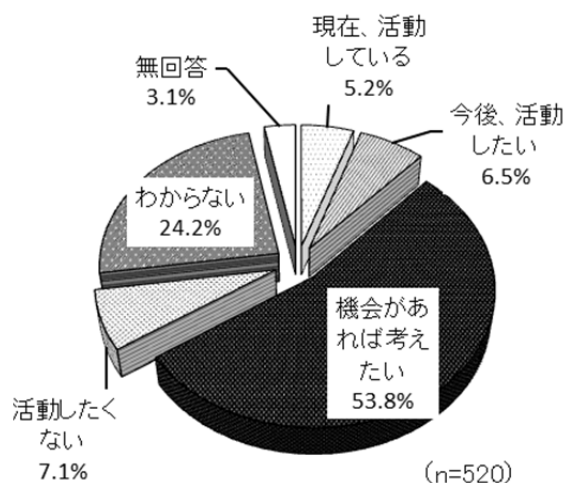
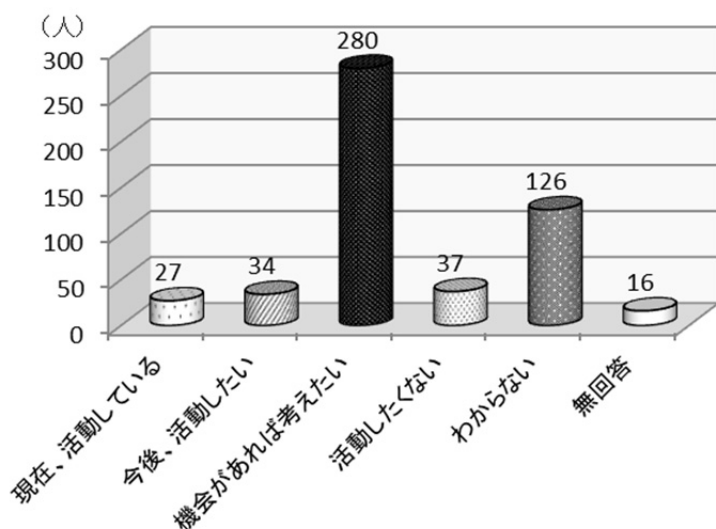


表 3-5-5 「協働のまちづくり」の実現意欲回答数

表 3-5-6 「協働のまちづくり」の実現意欲回答割合

【性別の「協働のまちづくり」の実現意欲】

男性、女性とも「機会があれば考えたい」の割合が約 5 割となった。

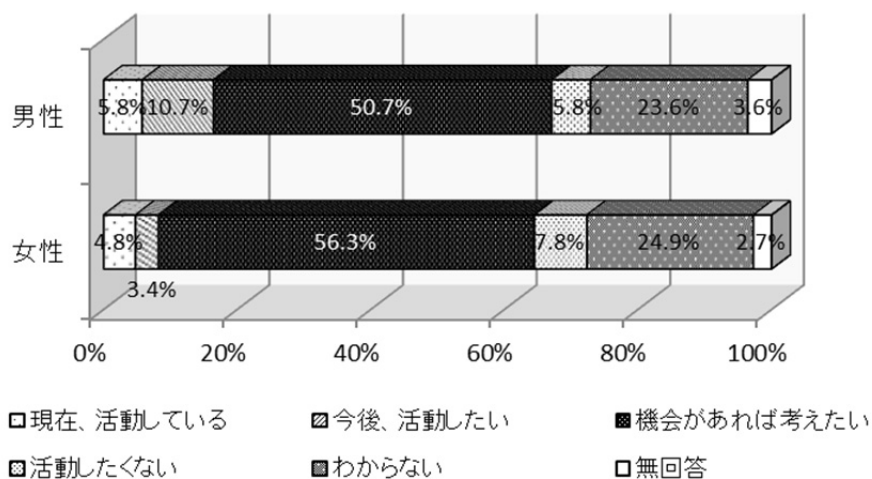


表 3-5-7 性別「協働のまちづくり」の実現意欲回答割合

【年齢別の「協働のまちづくり」の実現意欲】

「18・19歳」を除く全ての年齢層で「機会があれば考えたい」の割合が一番高く、30代から60代で、5割以上となった。

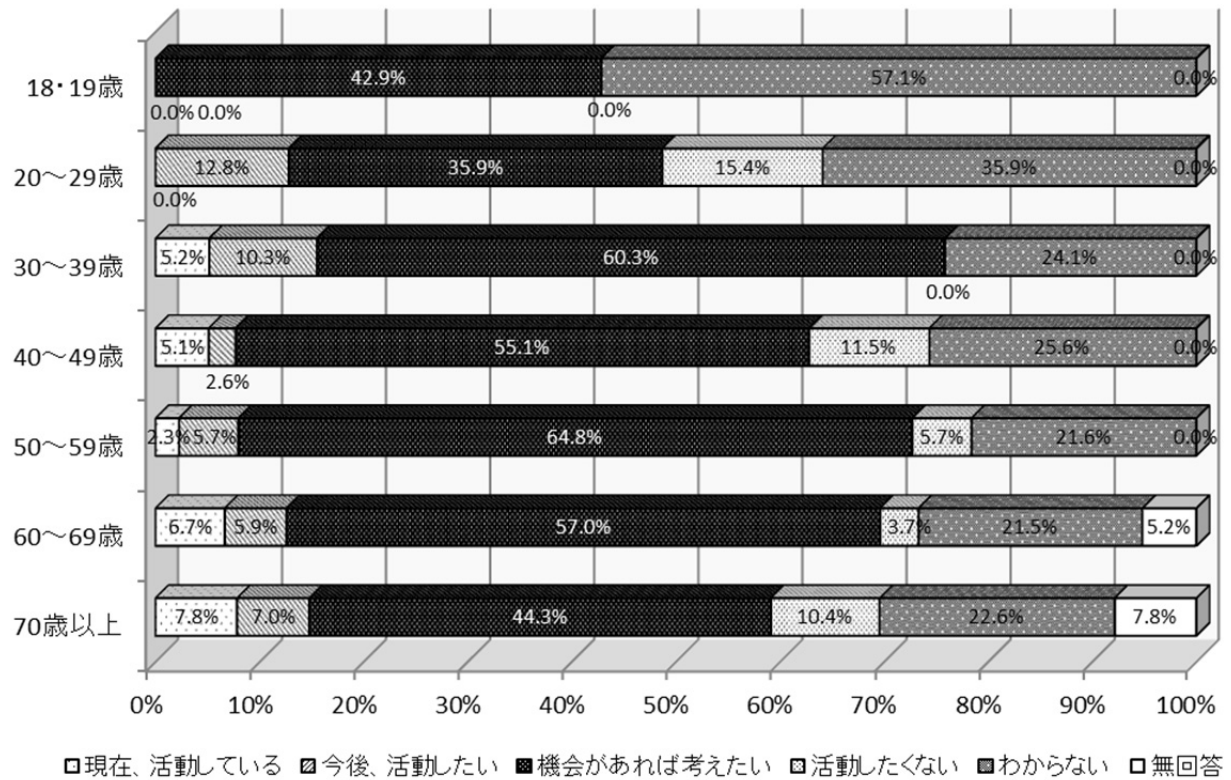


表 3-5-8 年齢別「協働のまちづくり」の実現意欲回答割合

(6) 「議会本会議」について

問 4-1 議会本会議の様子や審議結果などをご覧になっていますか。

議会本会議の様子や審議結果などについては、「あまり見ない(31.9%)」、「まったく見ない(30.8%)」「時々見ている(29.6%)」、「よく見ている(5.8%)」の順となったが、上位3項目は約3割とほぼ同じ割合となった。

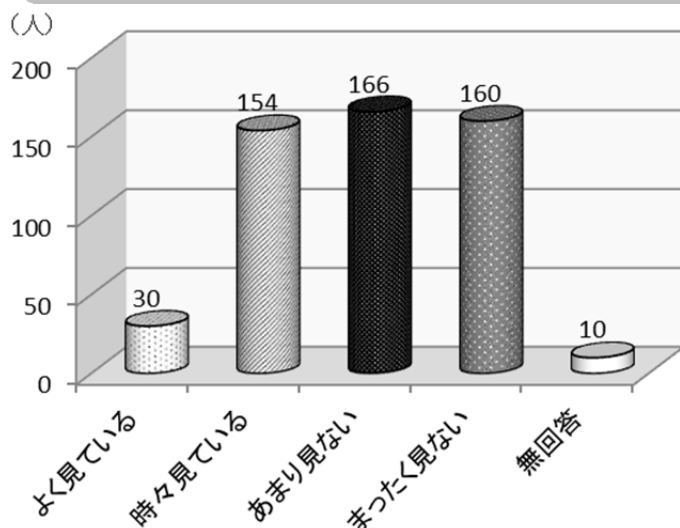
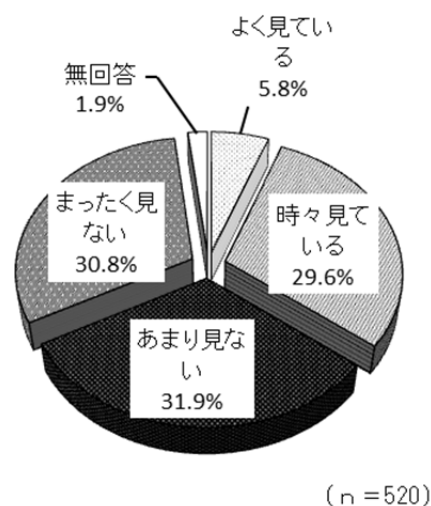


表 3-6-1 「議会本会議」についての回答数



(n = 520)

表 3-6-2 「議会本会議」についての回答割合

【年齢別の「議会本会議」について】

「時々見ている」「よく見ている」の“見ている”が60歳以上では4割を超え、40代・50代では約3割、30代では約2割となっている。高い年代になるほど割合が高くなっている。

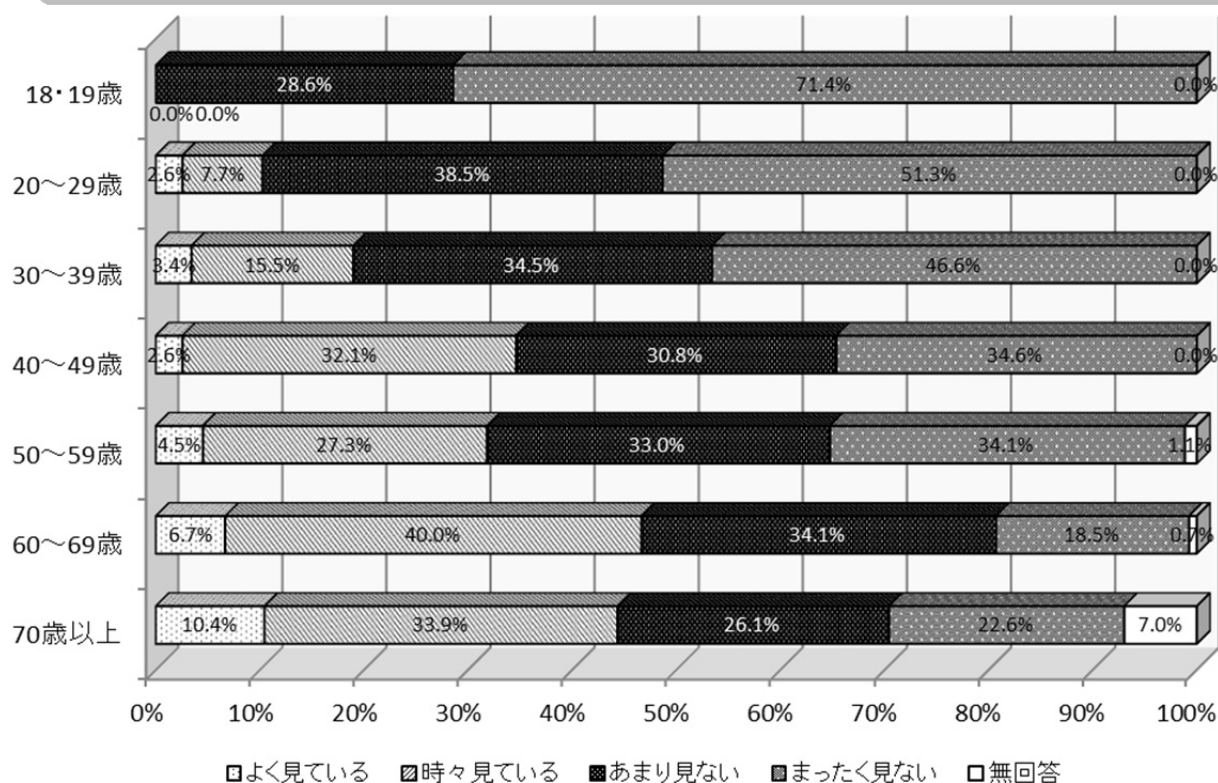
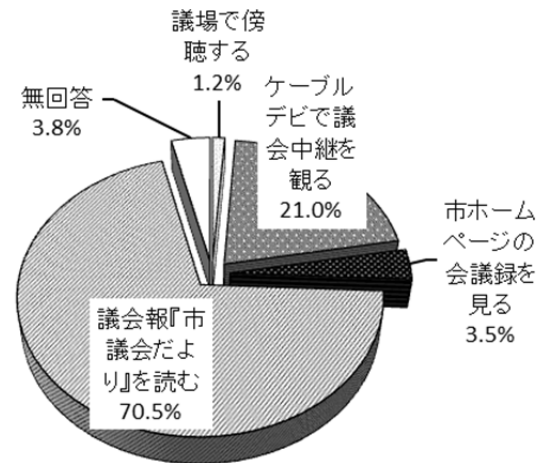
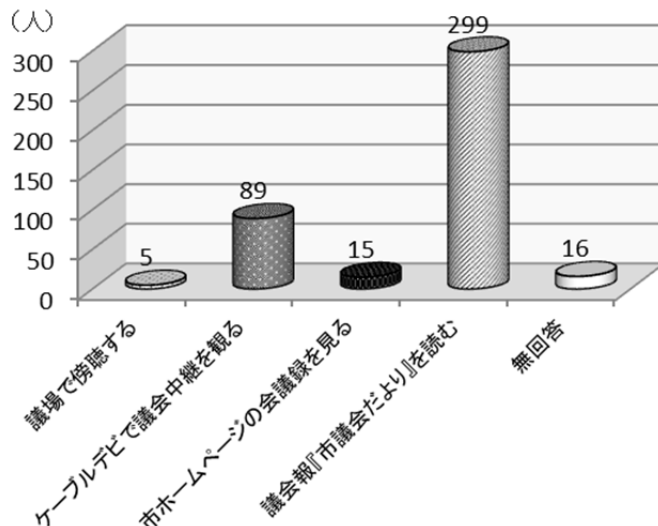


表 3-6-3 年齢別「議会本会議」についての回答割合

問 4-2 「問 4-1」で、「1 よく見ている」「2 時々見ている」「3 あまり見ない」を選んだ方は、どのような方法でご覧になっていますか。（複数回答可）

議会本会議の様子や、審議結果の情報入手方法として、回答者の約 9 割の人が『市議会だより』（70.5%）、『ケーブルテレビ』（21.0%）の 2 つの方法で得ている結果となった。



(n = 424)

表 3-6-4 「議会本会議」の情報入手方法の回答数

表 3-6-5 「議会本会議」の情報入手方法の回答割合

【年齢別の「議会本会議」の情報入手方法について】

全ての年齢層で回答者の約 9 割の人が『市議会だより』と『ケーブルテレビ』で情報を得ている結果となった。

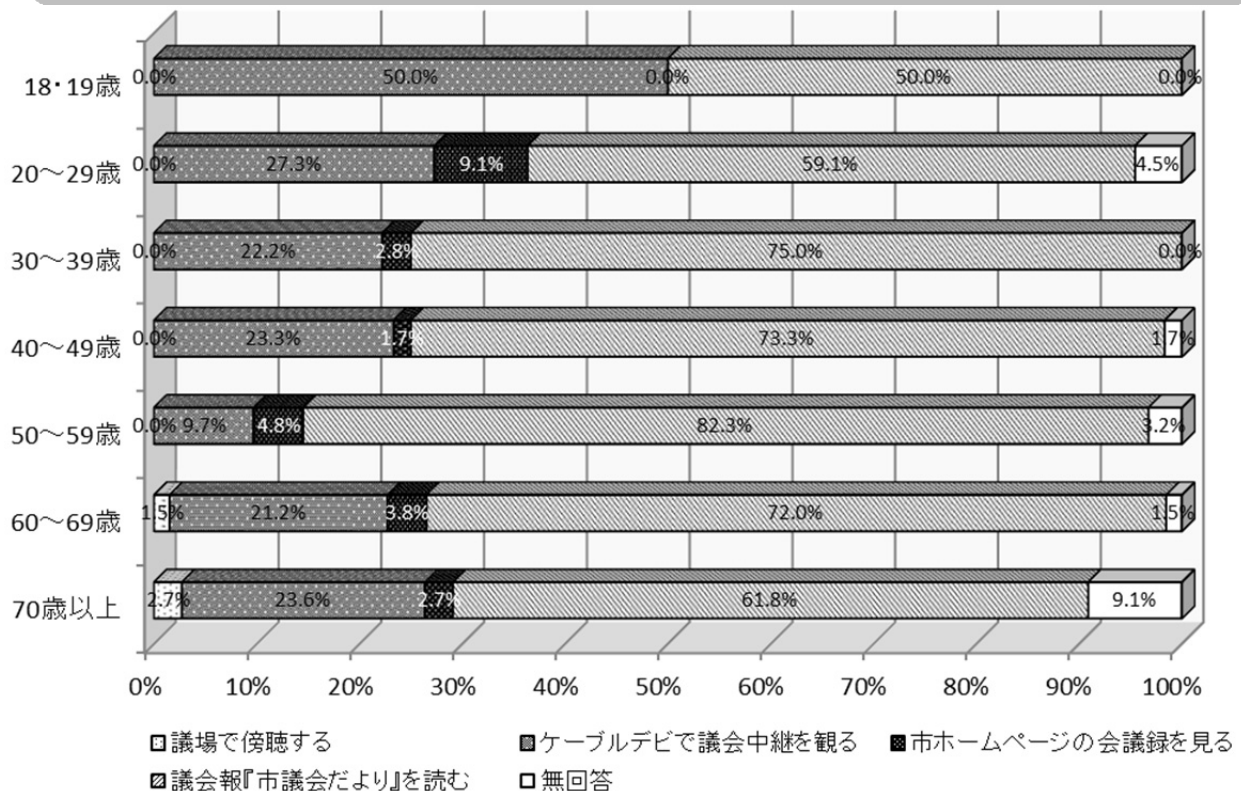


表 3-6-6 年齢別「議会本会議」の情報入手方法の回答割合